

学校名	盛岡大学
設置者名	学校法人盛岡大学

「実務経験のある教員等による授業科目の計上科目一覧表及び授業計画(シラバス)」

(1) 文学部 英語文化学科

No.	実務経験のある教員等による授業科目名	単位数	備考	添付書類
1	英語科教育法Ⅱ	2		No.1-1
2	英語科教育法Ⅳ	2		No.1-2
3	教職概論	2		No.1-3
4	教育実習事前事後指導	1		No.1-4
5	教職実践演習(中・高)	2		No.1-5
6	グローバル・コミュニケーション演習C	2		No.1-6
7	英語文化講読Ⅲ S T	2	旧課程 4～2年	No.1-7
8	国際ビジネス	2	旧課程 4～2年	No.1-8
合計単位数		15		

(2) 文学部 日本文学科

No.	実務経験のある教員等による授業科目名	単位数	備考	添付書類
1	国語科教育法Ⅰ	2		No.1-9
2	国語科教育法Ⅱ	2		No.1-10
3	国語科教育法Ⅲ	2		No.1-11
4	国語科教育法Ⅳ	2		No.1-12
5	漢文基礎演習	2		No.1-13
6	中国文学概論	2		No.1-14
7	中国文学講読	2		No.1-15
合計単位数		14		

(3) 文学部 社会文化学科

No.	実務経験のある教員等による授業科目名	単位数	備考	添付書類
1	博物館概論	2		No.1-16
2	博物館経営論	2		No.1-17
3	文化財概論	2		No.1-18
4	博物館実習 I	2		No.1-19
5	博物館実習 II	2		No.1-20
6	社会科・地歴科教育法 I	2		No.1-21
7	社会科・地歴科教育法 II	2		No.1-22
合計単位数		14		

(4) 文学部 児童教育学科 児童教育コース

No.	実務経験のある教員等による授業科目名	単位数	備考	添付書類
1	教職入門	2	保・幼コース共通	No.1-23
2	教育相談	2	保・幼コース共通	No.1-24
3	特別支援教育論	2	保・幼コース共通	No.1-25
4	教育心理学	2		No.1-26
5	初等国語科教育法	2		No.1-27
6	初等社会科教育法	2		No.1-28
7	初等体育科教育法	2		No.1-29
合計単位数		14		

(5) 文学部 児童教育学科 保育・幼児教育コース

No.	実務経験のある教員等による授業科目名	単位数	備考	添付書類
1	教職入門	2	児コース共通(再掲)	No.1-30
2	教育相談	2	児コース共通(再掲)	No.1-31
3	特別支援教育論	2	児コース共通(再掲)	No.1-32
4	幼児教育法 I	2		No.1-33
5	幼児教育法 II	2		No.1-34
6	子ども家庭福祉	2		No.1-35
7	社会福祉	2		No.1-36
合計単位数		14		

(6) 栄養科学部 栄養科学科

No.	実務経験のある教員等による授業科目名	単位数	備考	添付書類
1	応用栄養学 I (発達期の栄養)	2		No.1-37
2	臨床栄養管理学	2		No.1-38
3	臨床医学総論	2		No.1-39
4	臨床医学各論 I	2		No.1-40
5	臨床栄養学	2		No.1-41
6	公衆栄養学	2		No.1-42
7	給食実務論	2		No.1-43
合計単位数		14		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
山形 守平			
文学部DP(1) に関連	教職科目—中高	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	効果的な英語の指導方法を身につける。		
授業計画	1	イントロダクション 授業の概要説明、履修上の留意点	
	2	学習者について 学習者要因の理論	
	3	英語教員について 求められる英語教師像	
	4	効果的な音声指導とは① 指導理論、音声学習教材の研究、活動実践例	
	5	効果的な音声指導とは② 模擬授業（中学校）の実践と討議	
	6	効果的な音声指導とは③ 模擬授業（高校）の実践と討議	
	7	効果的な語彙指導とは① 指導理論、語彙学習教材の研究、活動実践例	
	8	効果的な語彙指導とは② 模擬授業（中学校）の実践と討議	
	9	効果的な語彙指導とは③ 模擬授業（高校）の実践と討議	
	10	効果的なリスニング指導とは① 指導理論、リスニング学習教材の研究、活動実践例	
	11	効果的なリスニング指導とは② 模擬授業（中学校）の実践と討議	
	12	効果的なリスニング指導とは③ 模擬授業（高校）の実践と討議	
	13	効果的なスピーキング指導とは① 指導理論、スピーキング学習教材の研究、活動実践例	
	14	効果的なスピーキング指導とは② 模擬授業（中学校）の実践と討議	
	15	効果的なスピーキング指導とは③ 模擬授業（高校）の実践と討議	
	16		
	17		
	18		
授業のねらい及び概要	<p>本科目と、続く「英語科教育法Ⅳ」では、効果的な英語の指導方法を探究する。2017年・2018年告示の学習指導要領の改訂に伴い、「聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くこと」の4技能5領域の統合的な学習・指導が目指されると同時に、発信能力を強化するために新しい科目が設定され、扱う語句が大幅に増加した。教科書「を」教えるのではなく、教科書「で」教えるとはどういうことか。授業は英語で行うことを基本とするが、場面別・授業展開別にどのようなクラスルームイングリッシュが必要か。また、生徒が英語で実際にコミュニケーションを図るためにはどんな指導が必要か。ほかにも4技能5領域や文法、語句、発音の教え方だけでなく、テストの方法、教室での生徒の座り方など、効果的な指導方法には実に多くの要素がかかってくることを明らかにし、実践的な指導力の育成を図る。</p> <p>この授業の担当教員は、38年間高校現場（6年間の行政経験を含む）で英語科の教諭として勤務してきた実務家教員であり、長年の実務の経験を生かした授業を行う。</p> <p>グループワーク（第2回～第15回）</p>		
到達目標	到達目標1	理論と実践を結びつけ、教室で教える場面がイメージできる。	
	到達目標2	効果的な音声指導・語彙指導の方法を習得し実践できる。	

	到達目標3 効果的なリスニング・スピーキングの指導法を習得し実践できる。 到達目標4 到達目標5 到達目標6 到達目標7 到達目標8
事前・事後学修	事前学修として、次の授業で扱う教科書の該当箇所を読むこと。模擬授業実践者は教材研究を行い、学習指導案（細案）を作成すること。生徒の役割として授業を受ける学生は、同様に教材を予習しておくこと。事前に配布するクラスルームイングリッシュの資料を読み英文を暗記して小テストの準備をしておくこと（90分程度） 事後学修として、授業で学んだことをまとめておくこと（章ごとにレポートを提出）。模擬授業や小テストで明らかになった課題を復習しておくこと（90分程度）
評価方法	演習及び課題30%、小テスト20%、試験50% 提出を求めた課題やレポートに対しては、講評の形でフィードバックするので、事前学修や事後学修に活用すること。
履修上の留意点	出席が2/3以上であること。 演習と課題が多いので、積極的に参加し、自己表現をすること。 毎回小テストを実施するので、テスト範囲の予習を十分に行うこと。 必ず辞書を持参すること。
テキスト	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 大修館書店 SUNSHINE 1-3 開隆堂 LANDMARK Fit English Communication I 啓林館 EARTHLINE English Logic and Expression 数研出版 中学校学習指導要領解説外国語編、高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編
参考文献	必要に応じて適宜紹介する。
教員e-mailアドレス	yamagata@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室に掲示。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	教職必修
担当教員			
山形 守平			
文学部DP 1に関連	教職科目—中高	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	効果的な英語の指導方法を身につける。
授業計画	<p>1 イントロダクション 授業の概要説明、履修上の留意点 クラスルームイングリッシュ</p> <p>2 効果的なリーディング指導とは① 指導理論、活動実践例、教材の研究</p> <p>3 効果的なリーディング指導とは② 音読</p> <p>4 効果的なリーディング指導とは③ 模擬授業（中学校）の実践と討議</p> <p>5 効果的なリーディング指導とは④ 模擬授業（高等学校）の実践と討議</p> <p>6 効果的なライティング指導とは① 指導理論、活動実践例</p> <p>7 効果的なライティング指導とは② 教材の研究</p> <p>8 効果的なライティング指導とは③ 模擬授業（中学校）の実践と討議</p> <p>9 効果的なライティング指導とは④ 模擬授業（高等学校）の実践と討議</p> <p>10 授業の実践 中学校英語科授業参観</p> <p>11 効果的な文法指導とは① 指導理論、活動実践例、教材の研究</p> <p>12 効果的な文法指導とは② 模擬授業（中学校）の実践と討議</p> <p>13 効果的な文法指導とは③ 模擬授業（高等学校）の実践と討議</p> <p>14 学習指導案 学習指導案の構成、作成要領</p> <p>15 ふりかえり 全体のまとめ</p> <p>16</p> <p>17</p> <p>18</p>
授業のねらい及び概要	<p>本科目では、「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」に続き、効果的な英語の指導方法を探る。主にリーディング、ライティング、文法の指導法、併せてクラスルームイングリッシュの使い方、学習指導案の作成の仕方などについて学んでいく。</p> <p>新しい中学校学習指導要領における外国語科の目標は、「簡単な情報や考え方を理解したり表現したり伝えあったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成することであり、英語の授業では4技能5領域の統合的な学習・指導がますます重要になってくる。このように、現在の中学校および高校の英語教育の流れを意識しながら効果的な指導法を考えていく。そして授業の総仕上げとして模擬授業を通して、英語教員としての資質能力の育成を図る。</p> <p>この授業の担当教員は、38年間高校現場（6年間の行政経験を含む）で英語科の教諭として勤務してきた実務家教員であり、長年の実務の経験を生かした授業を行う。</p> <p>グループワーク（第2回～第15回、第10回を除く）、実習・フィールドワーク（第10回）</p>
到達目標	<p>到達目標1 効果的なリーディング・ライティングの指導法を習得し実践できる。</p> <p>到達目標2 効果的な文法の指導法を習得し、よりコミュニケーション実践ができる。</p>

	到達目標3 授業展開の予想精度を高め、より効果的な学習指導案の作成ができる。 到達目標4 到達目標5 到達目標6 到達目標7 到達目標8
事前・事後学修	事前学修として、次回の授業で扱う教科書の該当箇所を読むこと。模擬授業実践者は教材研究を行い、学習指導案（細案）を作成すること。生徒の役割として授業を受ける学生は、同様に教材を予習してくる。事前に配布するクラスルームイングリッシュの資料を読み英文を暗記して小テストの準備をしておくこと（90分程度） 事後学修として、授業で学んだことをまとめておくこと（章ごとにレポートを提出）。模擬授業や小テストで明らかになった課題を復習しておくこと（90分程度）
評価方法	演習及び課題30%、小テスト20%、試験50% 提出を求めた課題やレポートに対しては、講評の形でフィードバックするので、事前学修や事後学修に活用すること。
履修上の留意点	出席が2/3以上であること。 演習と課題が多いので、積極的に参加し、自己表現をすること。 毎回小テストを実施するので、テスト範囲の予習を十分に行うこと。 必ず辞書を持参すること。
テキスト	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 大修館書店 SUNSHINE 1-3 開隆堂 LANDMARK Fit English Communication I 啓林館 EARTHLINE English Logic and Expression 数研出版 中学校学習指導要領解説外国語編、高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編
参考文献	必要に応じて適宜紹介する。
教員e-mailアドレス	yamagata@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室に掲示。

講義科目名称： 教職概論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
山形 守平			
文学DP(1)、栄養DP(2)に関連	教職科目—中高	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）について学ぶ。		
授業計画	1	ガイダンス 教職への道、自己点検、なぜ教員を目指すのか。	
	2	教職の意義 教職とは何か、教職の特殊性、教職の意義。	
	3	教育基本法と教育の目標 日本国憲法、教育基本法、学校教育法。	
	4	学習指導要領とは 学習指導要領の歩みと現行の学習指導要領。	
	5	理想の教員像 理想像の変遷、これからの教員像。	
	6	教員の任用と服務 教職員の資格と処分、教員の身分と任用、教員の服務。	
	7	教員養成の歴史 師範学校、戦後の教員免許制度、教員養成の現状。	
	8	学校の組織 教職員配置の原則、学校の管理職とミドルリーダー、教諭。	
	9	授業づくり 指導計画と指導案、観点別評価、テストと評定、授業の工夫。	
	10	外部講師による特別授業 現職の中学校教諭をお招きしての特別授業。お招きする講師の都合により日程が変更することがある。	
	11	授業以外の教員の仕事 授業以外の仕事、教員の一日と一年。	
	12	介護等体験と教育実習の意義 介護等体験の概要と意義、教育実習の概要と意義。	
	13	教員の資質向上と研修 教員の資質と能力、研修制度、自主研修の大切さ。	
	14	これからの教師に求められること 生きる力、学び続ける教師。チーム学校への対応。	
	15	まとめ これからの教員に求められること、生きる力と学び続ける教員。	
授業のねらい及び概要	<p>「教職概論」は平成9年7月の教育職員養成審議会答申および新教育職員免許法の趣旨に沿って設定された科目である。これから教職に就くことを目標に学び始めた学生たちが、教員とは一体どのような職業なのか、具体的にどのような仕事があるのか、教員にはどのような資質が求められるのかなど、教員についての基礎的事項を学習することが目的である。文科省では、この科目について含めることが必要な事項として以下の3点を挙げている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教職の意義及び教員の役割 2 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障を含む） 3 進路選択に資する各種の機会の提供 <p>これらを念頭に、教育法規の確認、具体的事例の紹介と検討などを行う。 この授業の担当教員は、38年間高校現場（6年間の行政経験を含む）で教諭及び管理職として勤務してきた実務家教員であり、長年の実務の経験を生かした授業を行う。 グループワーク（第2回～第15回、第10回を除く）、外部講師（第10回） 毎回の授業でコメントカードの提出を求める。コメントカードとは、授業中にディスカッションを行った場合はディスカッションの前と後の意見を、ディスカッションを行わないときは授業の振り返りを記載して提出する。</p>		
到達目標	到達目標1	教員の仕事や役割について説明することができる。	
	到達目標2	教員に求められる資質など教員にかかわる基礎的事項について説明することができる。	
	到達目標3	現在の教育に関する課題について説明することができる。	
	到達目標4		
	到達目標5		

	到達目標6 到達目標7 到達目標8
事前・事後学修	事前学修として、次回の授業で扱うテーマについて予習を行うこと。その際テーマに関連する教育時事のニュース報道等についても下調べをして、自分なりの意見や考えを整理しておくこと（90分程度） 事後学修として、専用のノートを作成すること。ノートには、授業で取り上げた事例、教育法規などについて整理し、同時に毎日の新聞等の教育時事に関する報道を点検し、自分の意見を自分の言葉で表現すること（90分程度）
評価方法	受講態度（ディスカッションへの積極的参加、コメントカードの提出）50%、試験50% 提出を求めたコメントカードに対しては、講評の形でフィードバックするので、事前学修や事後学修に活用すること。
履修上の留意点	出席が2/3以上であること。講義に出席してもコメントカードを提出しない場合は欠席扱いとする。 この科目は教職課程の必修科目で、教員を目指すという明確な課題意識を持った学生だけが履修する科目である。また、教員免許状は取得までに多大な努力が必要なだけでなく、介護等体験や教育実習などでは学外の教員や生徒たちに協力をお願いすることになる。そこで、教職に就く意志がない者、資格だけを取ろうと考えている者には厳しく対処する。
テキスト	中学校学習指導要領（平成29年告示） 介護等体験ガイドブック フィリア（介護等体験履修者は必須） よくわかる社会福祉施設（介護等体験履修者は必須）
参考文献	授業中適宜指示する。
教員e-mailアドレス	yamagata@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室に掲示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
山形 守平			
文学部DP(1)に関連	教職科目一中高	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	教育実習の事前指導と事後指導
授業計画	<p>1 ガイダンス 学級開きとして、教育実習への事前指導を行う。</p> <p>2 教育実習の事前指導 英語授業のDVD鑑賞</p> <p>3 授業実践 50分の模擬授業を実践したうえで、参加学生全員とディスカッションを行う。</p> <p>4 授業実践 50分の模擬授業を実践したうえで、参加学生全員とディスカッションを行う。</p> <p>5 授業実践 50分の模擬授業を実践したうえで、参加学生全員とディスカッションを行う。</p> <p>6 授業実践 50分の模擬授業を実践したうえで、参加学生全員とディスカッションを行う。 外部講師によるティームティーチングの実践を行う。</p> <p>7 授業実践 50分の模擬授業を実践したうえで、参加学生全員とディスカッションを行う。</p> <p>8 授業実践 50分の模擬授業を実践したうえで、参加学生全員とディスカッションを行う。</p> <p>9 授業実践 50分の模擬授業を実践したうえで、参加学生全員とディスカッションを行う。</p> <p>10 授業実践 50分の模擬授業を実践したうえで、参加学生全員とディスカッションを行う。</p> <p>11 授業実践 50分の模擬授業を実践したうえで、参加学生全員とディスカッションを行う。</p> <p>12 授業実践 50分の模擬授業を実践したうえで、参加学生全員とディスカッションを行う。</p> <p>13 授業実践 50分の模擬授業を実践したうえで、参加学生全員とディスカッションを行う。</p> <p>14 授業実践 50分の模擬授業を実践したうえで、参加学生全員とディスカッションを行う。</p> <p>15 教育実習報告会 実習成果の発表及び協議を行う。</p> <p>16</p> <p>17</p> <p>18</p>
授業のねらい及び概要	<p>「教育実習事前事後指導」は、「教育実習」と一体をなす科目である。したがって、この科目のみを履修することはできない。教育実習の成果をあげるため、指導案の作成や模擬授業に重点を置いて、実践的な指導力の育成を図る。</p> <p>事前指導にあたっては、これまで学習・研究してきた教育に関する諸理論の整理をする中で、実習の意義や目的、内容と方法、さらに指導の実際について理解を深めるとともに、実践的な研究に向けての具体的な課題を設定させたい。また、実習といえども、教育の一環に直接かかわることの重大性を認識させ、重い責任と使命感を自覚して、それに耐えうる心構えを身につけさせたい。具体的には、実習中の毎日の生活に関すること、指導教諭の授業見学、学級経営の様子とHR指導、学習指導案の作成と教科指導、研究授業の展開、部活動や生徒会活動の指導、さらには、学年経営や校務分掌の仕事など、実習でのより多くの成果があがるよう準備を徹底する。実習中の留意事項、実習校に対しての挨拶・マナー、問題が生じた場合の対応の仕方などまで考えたい。</p> <p>事後指導については、教育実習で得た成果をレポートにまとめたり、発表・協議したりすることをとおして整理し、発展させ、教員としての力量のさらなる涵養をはかる。</p> <p>このうち教職科目担当教員は、38年間高校現場（6年間の行政経験を含む）で英語科の教諭として勤務してきた実務家教員であり、長年の実務の経験を生かした授業を行う。</p>

グループワーク（第3回～第15回）	
到達目標	<p>到達目標1 教育実習に向けて必要な事項を説明できる。</p> <p>到達目標2 1単元の授業を構想し、実践できる。</p> <p>到達目標3 教育実習の反省をふまえ教員免許取得までに身に付けるべき事項を説明できる。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の実践者はテーマの指導案と板書計画を作成し提出する（準備に120分以上かけること）。 ・模擬授業の実践者は授業後反省文を、授業の参観者は授業の感想文を作成し提出する。（作成に120分以上かけること） ・教育実習終了後2週間以内に、レポート「教育実習の成果と課題」をA4用紙4～5枚にまとめ提出すること。
評価方法	この授業の評価は教育実習と連動するものであり、教育実習先での評価（80％）とこの授業の評価（20％）により評価を出す。この授業の評価は、指導案、模擬授業の内容、授業中の討論への参加状況、レポートなどを総合的に判断する。提出を求めた課題やレポートに対しては、講評の形でフィードバックするので、事前学修や事後学修に活用すること。
履修上の留意点	授業は教育実習を想定して行います。参加者には教員（社会人）としての振る舞い、言動、身だしなみを求めます。
テキスト	『教育実習の手引き』（本学作成） SUNSHINE1～3 開隆堂 LANDMARK Fit English Communication I 啓林館 EARTHLINE English Logic and Expression 数研出版 中学校学習指導要領解説外国語編、高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編
参考文献	必要に応じて適宜紹介する。
教員e-mailアドレス	yamagata@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室に掲示。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	選択
担当教員			
山形守平/新沼 史和			
文学部DP(1)に関連	教職科目—中高	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	教員として必要な資質能力を主体的に統合、形成していく。
授業計画	<p>1 教職カルテをもとに自己点検・分析を行う</p> <p>2 問題解決のための計画を立案する 自己分析によって発見した課題を、グループワークを通して解決のための道筋を発見する。</p> <p>3 課題ごとの実践・探究① 設定した課題について各自で解決的实践を行う。</p> <p>4 課題ごとの実践・探究② 設定した課題について各自で解決的实践を行う。</p> <p>5 特別授業「若手教員に学ぶ」 特別講師として、中学校または高等学校に勤務する若手教員をお招きして、教員という職業の実際について学修する。（お招きする教員の都合により日程が変更になる場合もある）</p> <p>6 特別授業の振り返り 特別授業「若手教員に学ぶ」の振り返りとして、ディスカッションを行い、特別授業の感想を含めてレポートを作成する。</p> <p>7 特別授業「中堅教員に学ぶ」 特別講師として、中学校または高等学校に勤務するミドルリーダーの教員をお招きし、生徒指導・教科指導の実際について学修する。（お招きする教員の都合により日程が変更になる場合もある）</p> <p>8 特別授業の振り返り 特別授業「中堅教員に学ぶ」の振り返りとして、ディスカッションを行い、特別授業の感想を含めてレポートを作成する。</p> <p>9 特別授業「校長先生に学ぶ」 特別講師として、中学校または高等学校に勤務する校長先生をお招きし、教員に求められる資質・能力や理想の教師像について学修する。（お招きする教員の都合により日程が変更になる場合もある）</p> <p>10 特別授業の振り返り 特別授業「校長先生に学ぶ」の振り返りとして、ディスカッションを行い、特別授業の感想を含めてレポートを作成する。</p> <p>11 授業参観 近隣の中学校での授業参観を行う。（都合により日程が変更になる場合もある）</p> <p>12 授業参観の振り返り 授業参観の振り返りとして、授業のディスカッションを行い、特別授業の感想を含めてレポートを作成する。</p> <p>13 課題ごとの解決実践① 「課題ごとの実践・探究①～②」において各自が取り組んだ解決的实践について、グループセッションで共有し、ディスカッションを行う。</p> <p>14 課題ごとの解決実践② 「課題ごとの実践・探究①～②」において各自が取り組んだ解決的实践について、グループセッションで共有し、ディスカッションを行う。</p> <p>15 授業の振り返り 14回の授業の振り返りとしてディスカッションを行い、最終レポートを提出する。</p>
授業のねらい及び概要	<p>中学校・高等学校の教員免許取得の必修科目である。1年次から教職関連科目や教育実習を履修してきたことを通して明らかになった課題等の総まとめの科目であるとともに、これまでの「学びの軌跡の集大成」として位置づけられるものである。教育活動についての実践力に関して、4つの事項（①使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、②社会性や人間関係能力に関する事項、③生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科内容等の指導力に関する事項）の観点から、不足している資質、知識、技能等を履修カルテ等により明らかにし、その定着を図る。授業形式は、討議、事例研究、模擬授業等を適宜取り入れ、演習を中心として実施する。</p> <p>授業は、教職科目担当教員と教科専門担当教員が協力して行う。このうち教職科目担当教員は、38年間高校現場（6年間の行政経験を含む）で英語科の教諭として勤務してきた実務家教員であり、長年の実務の経験を生かした授業を行う。</p> <p>テュートリアル型課題解決型学修（第3,4回）、実習・フィールドワーク（第11,12回） グループワーク（第2,6,8,10,13,14,15回）、外部講師（第5,7,9回）</p>
到達目標	<p>到達目標1 教員として必要な資質能力を主体的に統合し、形成していくことができる。</p> <p>到達目標2 自分の課題等を明確にして、不足している資質、知識、技能等を説明することができる。</p> <p>到達目標3 英語科教員として学び続けることの重要性を説明できる。</p>

	到達目標4 到達目標5 到達目標6 到達目標7 到達目標8
事前・事後学修	事前学修では授業で取り組む課題についての予習を90分以上行い、事後学修では感想を含めた振り返りの文章を90分以上で作成すること。
評価方法	実践演習への取り組み状況60%、レポート40%により評価する。なお、レポートは添削したうえで返却する。
履修上の留意点	教職に関する科目の単位をすべて修得し、履修した全ての教職履修カルテがそろっていることが履修の条件となる。
テキスト	中学校学習指導要領解説外国語編 高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編
参考文献	必要に応じて適宜紹介する。
教員e-mailアドレス	yamagata@morioka-u.ac.jp niinuma@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室前に掲示してあります

講義科目名称： グローバル・コミュニケーション演習C

授業コード： 2215

英文科目名称： Communication Seminar; Publishing and Advertising

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
風丸 良彦			
英文DP (1) (2) に関連	英-専門-GC領域	実務経験のある教員による授業	能動的学修科目
添付ファイル			

小見出し	出版と広告 (グローバル時代のコミュニケーションと出版・広告文化)
授業計画	<p>1 イントロダクション 「出版」「広告」というメディアとそのコミュニケーション様態</p> <p>2 「ことば」の本質</p> <p>3 【オープニングセッション マスコミュニケーション】 「コミュニケーション問題への文化的アプローチ」 (M・ミード) ①: コミュニケーションの諸形態 ～グループ討議</p> <p>4 【オープニングセッション マスコミュニケーション】 「コミュニケーション問題への文化的アプローチ」 (M・ミード) ②: 未開部族のコミュニケーションの本質 ～グループ研究完成</p> <p>5 【オープニングセッション マスコミュニケーション】 「コミュニケーション問題への文化的アプローチ」 (M・ミード) ②: 未開部族のコミュニケーションの本質 ～グループ研究完成 グループディスカッションを行い、その結果をプレゼンテーションソフトを活用しながら発表し合い、理解を深める。</p> <p>6 【Session 1 出版】 テーマ: 「出版(活字コミュニケーション)」の可能性 「出版」と「ネット」の違い 研究: 日本の出版の歴史(戦後)と出版の現在 「ベストセラー」とは? (映像資料閲覧)</p> <p>7 【Session 1 出版】 出版研究 「宝島」「POPEYE」 若者雑誌がつかない「アメリカ」と「日本」、その変容 グループディスカッション</p> <p>8 【Session 1 出版】 出版研究 グループディスカッション発表 グループディスカッションを行い、その結果をプレゼンテーションソフトを活用しながら発表し合い、理解を深める。</p> <p>9 【Session 2 広告】 「広告のテキスト」</p> <p>10 【Session 2 広告】 「コンテキストと記号」 「欧米の広告」と「日本の広告」の二項対立原理</p> <p>11 【Session 2 広告】 発表 レポート1 「出版」 日本の広告における修辞法 (映像資料閲覧)</p> <p>12 【Session 2 広告】 演習「日本的キャッチフレーズとアメリカ的キャッチフレーズ」作成・発表 広告実践: 映像広告作成(1) グループディスカッションを行い、その結果をプレゼンテーションソフトを活用しながら発表し合い、理解を深める。</p> <p>13 【Session 2 広告】 広告実践: 映像広告作成(2)</p> <p>14 【Session 2 広告】 広告実践: 映像広告発表 グループディスカッションを行い、その結果をプレゼンテーションソフトを活用しながら発表し合い、理解を深める。</p> <p>15 【Session 2 広告】 まとめ「出版・広告」というコミュニケーション 「広告」レポート提出</p>
授業のねらい及び概要	本授業は、民間企業での25年間にわたる実務経験に基づく「出版」に係る知識、また17年間にわたる実務経験に基づく「広告」に係る知識を学修に活かし、講義・研究を行うものです。

	<p>本授業で取り扱うのは「マスコミュニケーション」です。テレビや新聞がすぐに思い浮かぶ「マスコミュニケーション」のうち、「出版」と「広告」について重点的に研究します。</p> <p>授業の前段では、「コミュニケーション」「メディア」「マスメディア」をきちんと定義していきます。ちなみに「コミュニケーション」とはなんでしょう？ 現代を生きる私たちは、たとえば原始の社会をきた人々よりも高度なコミュニケーションを行っているでしょうか。実は、太平洋の未開部族のコミュニケーション様式を見ることにより、意外な真実が浮かび上がってきます。また「メディア」とは単にメッセージを載せる器でしょうか。「メディア」そのものには何のメッセージもないのでしょうか。たとえば、あなたはトイレットペーパーにラブレターを書きますか？ できるだけ上質な紙を使おうとしませんか？ とすると、メディアである紙そのものにもメッセージ性があることとなります。</p> <p>こうした研究を経て、授業の後段においては、人類初の「マスコミュニケーション」を可能にした「出版」（印刷活字文化）、さらに私達のコミュニケーションコードを巧みに刺激する「広告」について、具体的に研究し、実践していきます。授業の最後では、日本とアメリカのコミュニケーション原理を理解したうえで、あるひとつのテーマに対して、日本式、アメリカ式それぞれのスポット映像広告をグループ作成する実践研究があります。</p> <p>グループワーク・プレゼンテーション [第4,5回] [第7,8回] [第12,13,14回]</p>
到達目標	<p>到達目標1 コミュニケーションとしての出版に係る知識を習得し、そのことについて論じ、研究成果としてまとめ上げることができる。</p> <p>到達目標2 コミュニケーションとしての広告に係る知識を習得し、そのことについて論じ、研究成果としてまとめ上げることができる。</p> <p>到達目標3 広告に係る知識をもとに、具体的な映像広告作品を制作し、発表することができる。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>
事前・事後学修	<p>新聞や雑誌、さらにはTVや駅の広告等、「マスコミュニケーション」に日ごろから関心を持つこと。</p> <p>次回課題を読み、授業に臨むこと。</p> <p>授業後は不明な点について十全に整理すること（事前予習、事後整理所要時間＝それぞれ約30分）。</p> <p>自らの意見を構築し、表明できるよう心掛けること。</p> <p>資料講読、グループ検討、資料作成、発表の順序で進行する。</p> <p>このため事前学修として、グループ研究・発表（準備）に多くの時間を割くことになる。授業時間外にグループで集まり、相互研究を行う時間が授業時間と同規模になる。</p>
評価方法	<p>レポート（3本）にて評価する。欠席は減点方式とする。合計得点90点以上でS評価とする。出席が6割未満の場合は、合計点の如何にかかわらずDまたはK評価とする。なお、レポートは提出期限厳守。期限を過ぎたものは、特別な事情（事前連絡）があるものを除き、不受理（成績評価対象外）扱いとする。</p> <p>グループディスカッション、プレゼンテーションに対しては、講評の形でフィードバックするので、事前学修や事後学修、レポートへの準備に活用すること。</p>
履修上の留意点	<p>研究・発表中心の演習科目である。グループワークに積極的に参加し、グループ内での発言、プレゼンテーションへの全面的な取り組みはもとより、他グループの発表にも批判精神をもって反応することが強く求められる。</p> <p>なお本科目は出版（活字）・広告文化におけるコミュニケーション原理を研究するものであり、出版・広告の実務に関わるものではありません。また、英語学習をその中心的目的とするものでもありません。</p>
テキスト	指定なし。授業において適宜資料を配布する。
参考文献	特になし。必要なものは授業において適宜配布する。
教員e-mailアドレス	kazamaru@盛岡大学のIP
オフィスアワー	A校舎2階 LA203研究室扉に掲示。質問他は随時メールでも対応する。またオンライン面談にも対応する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
風丸 良彦			
英文DP (1) (2) に関連	英－専門－基幹科目	実務経験のある教員による授業	能動的学修科目
添付ファイル			

小見出し	広告表現からアメリカ文化を学ぶ
授業計画	<p>1 日本とアメリカの広告手法の違い</p> <p>2 広告が放つメッセージ(記号)</p> <p>3 広告の目的を定める</p> <p>4 注意を惹くヘッドライン (キャッチコピー)</p> <p>5 ボディコピーからエンドクレジットへ</p> <p>6 説得力を持たせる</p> <p>7 消費者に行動を起こさせる</p> <p>8 コピーの長さを検討する</p> <p>9 広告と性別の関係</p> <p>10 より多くのアクションを得るために</p> <p>11 広告のサイズを検討する</p> <p>12 広告手法による効果差</p> <p>13 連続性による効果?</p> <p>14 広告実践</p> <p>15 まとめ 広告に見る日米文化の差異</p>
授業のねらい及び概要	<p>本授業は、民間企業での17年間にわたる実務経験に基づき、現代社会における広告の表現方法や日米間の広告表現差異に係る基本事項について、学修に活かした講義を行うものです。</p> <p>広告関連業務や雑誌、あるいは駅などで、普段何気なく眺めている広告も立派な「言語文化」です。なぜなら、私たちは頻繁にそうした広告のメッセージに心を動かされ、消費活動や、また社会活動に積極的に関与していくことがあります。</p> <p>ところが、国が違えば、おのずと言語文化も違いますから、広告表現の方法も異なってきます。私たちとは異なる広告の表現の方法によって、しかし私たちと同様に消費活動や、また社会活動に積極的に関与していく他の文化があるとすれば、そこに「比較文化」の研究対象があるのではないかと。</p> <p>かつてのアメリカの「広告」では、他社の製品を徹底的に「叩く」ことが日常的に行われていました。いわゆる「比較広告」ですが、日本では認められていないその広告手法が、なぜアメリカでは一般的だったのでしょうか。そこには無論、言語文化の違いが介在しています。弁論術(Debate)の長い歴史を持つ西洋諸国と、そうした文化的土壌を持たない我国とでは、自ずと広告表現の方法も異なってきます。</p> <p>本授業では、毎回テキスト講読を行いながら、こうした文化的差異を念頭に「広告」を学習します。英語学修については、「聞く」「読む」「書く」の3領域に亘ります。</p> <p>また、授業計画にあるような広告制作に関わるテーマを毎回取り上げていきます。そのうえで、期末考査は実践(自ら作成する英語の広告)への評価、ならびに筆記試験となります。</p> <p>実践プレゼンテーション[第13, 14回]</p>
到達目標	<p>到達目標1 英語を「読む」「聞く」「書く」力を完成させ、実践的応用ができるようになる。</p> <p>到達目標2 「広告」を通じた日米の文化的差異の理解し、具体的に説明できるようになる。</p>

	到達目標3 「広告」に係る知識をもとに、具体的な広告作品を制作し、発表することができる。 到達目標4 到達目標5 到達目標6 到達目標7 到達目標8
事前・事後学修	事前学修として、テキストの当該箇所を精読し、理解すること（要する時間90分）。 授業を受けての事後学修として、授業内容に係り復習し、当該箇所の万全な理解を導くこと（要する時間90分）。
評価方法	広告の実作評価ならびに期末考査の得点を基本に評価する。欠席は減点方式とする。合計得点90点以上でS評価とする。出席が6割未満の場合は、合計点の如何にかかわらずDまたはK評価とする。 教科書の内容については適宜復習を行い、また定期試験直前には全体の再点検を行うので、事前学修や事後学修、試験への準備に活用すること。
履修上の留意点	テキストを精読のうえ授業に臨むこと。
テキスト	Smillie, Ishida, Nakano, Ogawa Voices of Japan & the U.S. (三修社) ¥1,600 (本体) ISBN 978-4-384-32027-5
参考文献	特になし。必要なものは授業において適宜配布する。
教員e-mailアドレス	kazamaru@盛岡大学のIP
オフィスアワー	A校舎2階 LA203研究室扉に掲示。質問他は随時メールでも対応する。またオンライン面談にも対応する。

講義科目名称： 国際ビジネス

授業コード：

英文科目名称： —

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択
担当教員			
小川 修平			
英文DP(1)(2)に関連	英-専門-グロ・コミ領域	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	日本企業の研究とMBAの基本
授業計画	<p>1 財務諸表の基礎+Case 1: Initiating World' s Biggest Joint Marketing Project/インテル</p> <p>2 Case 1: Initiating World' s Biggest Joint Marketing Project/インテル</p> <p>3 Case 2: Creating Value and Making a Difference/日本コカ・コーラ</p> <p>4 Case 3: Enhancing Luxury Brand Identity/シャネル、パルファン・クリスチャン・ディオール・ジャポン</p> <p>5 Case 4: Changing a Big Company with Management of Technology/サッポロビール</p> <p>6 Case 5: Reviving a Leading Brand/良品計画</p> <p>7 Case 6: Negotiating with Headquarters/インテル</p> <p>8 Case 7: Making a Challenging Business Profitable/JR九州高速船</p> <p>9 Case 8: Becoming a Representative Corporate Citizen in China/資生堂</p> <p>10 Case 9: Developing New Business in Emerging Markets/東芝</p> <p>11 Case 10: De-centralizing Marketing Strategies/インテル</p> <p>12 Case 11: Competing with Big Companies by Establishing a Regional Brand/明月堂</p> <p>13 Case 12: Sustaining Brand Identity and Global Business Strategies/良品計画</p> <p>14 Case 13: Enhancing Global Brand Communication/資生堂</p> <p>15 就職活動の概要と戦略について</p>
授業のねらい及び概要	<p>実務経験のない学生が将来のために「ビジネスの何を学ばよいか?」という疑問を持つことは当然であると思います。何故ならば、実務を経験した人でさえも、その疑問に明確に答えることはできないだろうと考えられるからです。しかし、あらゆる形態のビジネスに関わる上で決して無駄にならないだろうと思われるのは、いろいろな業界や企業の歴史的背景や動向に精通すること、そして、ビジネスという「ゲーム」が行われる仕組みを体系的に理解すること、さらに国際的な情報収集能力とボーダレスなコミュニケーション能力を獲得するための英語力を高めること、という三点であると考えます。こうした認識に基づき、本授業では、グローバル企業の活動を取り上げるとともに、企業経営の実務家養成を目的とした経営学修士課程(MBA)で教えらるるビジネスの基礎的事項について英語と日本語を通して学びます。さらに、実践的なケーススタディによって就職活動における業界・企業研究へのきっかけを作ります。本授業では、自動車メーカーでの実務経験とベンチャー企業での管理職経験、さらには米国のMBA留学経験を基に担当教員が国際的規模のビジネス活動を紹介いたします。</p>
到達目標	<p>到達目標1 経済・ビジネス慣用語を学ぶことを通して実用英語能力を向上させることができる。</p> <p>到達目標2 ビジネスに関するあらゆる面での常識を高めることができる。</p> <p>到達目標3 就職活動の業界研究及び企業研究を行うことができる。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p>

	到達目標8
事前・事後学修	事前学修として、次回の授業で扱う教科書の該当箇所を確認すること。事後学修として、教科書の該当箇所を見直し、音読訓練を行うこと。事前・事後学習においては、それぞれ90分程度が必要になります。
評価方法	参加姿勢（1割程度）、期末試験（9割程度）、出欠を総合的に評価します。
履修上の留意点	授業の推移とともに徐々に就職活動の準備を開始することが有効であると思います。
テキスト	Global Leadership Case Studies of Business Leaders in Japan ビジネスケースで学ぶグローバル人材の条件 中谷安男 / Ryan Smithers 著 978-4-7647-4001-3 (1900 円)
参考文献	藤井 正嗣 / リチャード・シーハン (著) 英語で学ぶMBAベーシックス (NHK CD Book—NHKテレビ英語ビジネスワールド) 日本放送出版協会 (本体3000円) 4140393610
教員e-mailアドレス	oshuuhei@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	LA205A室(大学棟2F) 木曜日3限

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
遠藤 可奈子			
文学部DP(1)に関連	教職科目—中高	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	中・高国語科教員免許取得の必修科目 国語科の指導法（情報通信技術の活用を含む）
授業計画	<p>1 授業づくり演習 1〈論理的文章の授業〉教材研究</p> <p>2 授業づくり演習 1〈論理的文章の授業〉授業計画と学習指導案</p> <p>3 授業づくり演習 1〈論理的文章の授業〉ショート模擬授業</p> <p>4 授業づくり演習 1〈論理的文章の授業〉模擬授業と振り返り</p> <p>5 授業づくり演習 2〈高校古典の授業〉教材研究</p> <p>6 授業づくり演習 2〈高校古典の授業〉授業計画と学習指導案</p> <p>7 授業づくり演習 2〈高校古典の授業〉ショート模擬授業</p> <p>8 授業づくり演習 2〈高校古典の授業〉模擬授業と振り返り</p> <p>9 授業づくり演習 3〈「話すこと・聞くこと」の授業〉教材研究と授業計画</p> <p>10 授業づくり演習 3〈「話すこと・聞くこと」の授業〉学習指導案とショート模擬授業</p> <p>11 授業づくり演習 3〈「話すこと・聞くこと」の授業〉模擬授業と振り返り</p> <p>12 授業づくり演習 4〈「書くこと」の授業と思考ツール〉講義と演習</p> <p>13 高校教員に学ぶ（特別講師授業）</p> <p>14 国語科教育の課題と実践研究</p> <p>15 まとめと振り返り</p>
授業のねらい及び概要	<p>中学校・高等学校の国語科教員を目指す学生の必修科目である。 前期「国語科教育法Ⅰ」履修した学生を対象として、学習指導要領の深い理解に基づく授業と評価の方法をはじめ国語科教員として必要な専門的力量を身に付けることをねらいとする。 授業は、模擬授業、グループワークを中心に行い、特別講師として現職高校教員を招聘する。</p> <p>なお本科目の担当は実務家教員であり、高等学校国語科教員としての37年間（10年間の管理職経験を含む）の経験を活かした実践的な指導を行う。</p>
到達目標	<p>到達目標1 国語科教育の意義及び学習指導要領の趣旨を理解し、説明することができる。</p> <p>到達目標2 学習指導要領を踏まえた授業と評価の方法を理解し、説明することができる。</p> <p>到達目標3 教材研究に基づいて授業計画・学習指導案を作成し、授業することができる。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>
事前・事後学修	<p>事前・事後学修として、次の①②を要する。 ①授業時の指示により、教材研究、学習指導案作成（word作成）、模擬授業準備等を行う。</p>

	<p>②テキストや配布資料を読む。 関連書籍等（テキスト章末の参考文献、教材研究や授業実践に関する図書他）により理解を深める。 ※90分を標準とするが、場合により180分程度必要。</p> <p>古典及び近現代の文学作品や様々な分野の評論・論説等を読んで広く深い知識・教養を身につけることが豊かな授業づくりに繋がるので、心がけてほしい。 なお正しく読みやすい文字を正しい筆順で書くことは国語科教員の必須スキルであり、各自努めること。</p>
評価方法	<p>評価は、試験（20%）、発表・模擬授業及び提出物（50%）、出席及び授業への取り組み（30%）を基本として、総合的に判断する。 なお模擬授業者に関しては授業時の講評、提出物に関しては評価及び基準を付すことによりフィードバックする。</p>
履修上の留意点	<p>教職を目指す学生一人ひとりが、「授業をつくる主体」として参加する演習中心の授業である。グループワーク、課題解決型学修（チュートリアル型）、模擬授業を多く取り入れる。積極的に取り組んで、授業者となるためのスキルを身につけてほしい。 教員免許に関わる科目であり、できる限り欠席しないことが望ましい。なお、3分の1以上欠席した場合は原則として単位を認めない。</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大学国語教育学会編『新たな時代の学びを創る 中学校・高等学校国語科教育研究』（東洋館出版社） ・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編（文部科学省） ・高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編（文部科学省） <p>※すべて前期「国語科教育法Ⅰ」に同じ。</p>
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教科書『国語1』『国語2』『国語3』令和3年度版（光村図書） ・ ” 『新しい国語1』『新しい国語2』『新しい国語3』令和3年度版（東京書籍） ・高等学校教科書『精選 現代の国語』『精選 言語文化』令和4年度版（東京書籍） ・ ” 『新編 現代の国語』『新編 言語文化』令和4年度版（東京書籍） ・『指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 中学校 国語』（東洋館出版社） ・『指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 高等学校 国語』（東洋館出版社） <p>その他必要に応じて適宜紹介する。</p>
教員e-mailアドレス	endo-k@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室（A校舎4階404研究室）前に掲示。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
遠藤 可奈子			
文学部DP(1)に関連	教職科目—中高	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	中・高国語科教員免許取得の必修科目 国語科の指導法（情報通信技術の活用を含む）
授業計画	<p>1 ガイダンス-国語科教育法で何を学ぶか</p> <p>2 国語科の授業とその方法①（発問とは何か）</p> <p>3 国語科の授業とその方法②（板書・ワークシート・ICT活用教材）</p> <p>4 学習指導要領「知識及び技能」の授業と評価</p> <p>5 学習指導要領「話すこと・聞くこと」の授業と評価</p> <p>6 学習指導要領「書くこと」の授業と評価</p> <p>7 学習指導要領「読むこと」の授業と評価</p> <p>8 教材研究、授業計画・学習指導案作成の方法</p> <p>9 授業づくりの実際（説明的文章の授業）教材研究</p> <p>10 授業づくりの実際（説明的文章の授業）授業計画</p> <p>11 授業づくりの実際（説明的文章の授業）学習指導案</p> <p>12 授業づくりの実際（説明的文章の授業）ショート模擬授業</p> <p>13 授業づくりの実際（説明的文章の授業）模擬授業と振り返り</p> <p>14 中学校教員に学ぶ（特別講師授業）</p> <p>15 まとめと振り返り</p>
授業のねらい及び概要	<p>中学校・高等学校の国語科教員を目指す学生の必修科目である。</p> <p>学習者として学んできた国語を授業者の立場でより深く学ぶとともに、学習指導要領を理解し、国語科教員として必要な専門的知識・技能、授業方法等を身につけることをねらいとする。</p> <p>前半はテキスト等を用いて理論を学び、後半では演習や模擬授業を取り入れて実践的に学ぶ。また特別講師として現職の中学校教員を招聘する。</p> <p>「国語科教育法Ⅲ」は、国語2種免の取得希望学生を含む科目である。多様な視点から意見交換することを期待したい。</p> <p>なお本科目の担当は実務家教員であり、高等学校国語科教員としての37年間（10年間の管理職経験を含む）の経験を活かした実践的な指導を行う。</p>
到達目標	<p>到達目標1 国語科教育の意義及び学習指導要領の趣旨を理解し、説明することができる。</p> <p>到達目標2 学習指導要領を踏まえた授業と評価の方法を理解し、説明することができる。</p> <p>到達目標3 教材研究に基づいて授業計画・学習指導案を作成し、授業することができる。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p>

	到達目標8
事前・事後学修	<p>事前・事後学修として、次の①②を要する。</p> <p>①授業時の指示により、教材研究、学習指導案作成（word作成）、模擬授業準備等を行う。</p> <p>②テキストや配布資料を読む。</p> <p>関連書籍等（テキスト章末の参考文献、教材研究や授業実践に関する図書他）により理解を深める。</p> <p>※90分を標準とするが、場合により180分程度必要。</p> <p>古典及び近現代の文学作品や様々な分野の評論・論説等を読んで広く深い知識・教養を身につけることが豊かな授業づくりに繋がるので、心がけてほしい。</p> <p>なお正しく読みやすい文字を正しい筆順で書くことは国語科教員の必須スキルであり、各自努めること。</p>
評価方法	<p>評価は、確認テスト（20%）、発表・模擬授業及び提出物（50%）、出席及び授業への取り組み（30%）を基本として、総合的に判断する。</p> <p>なお模擬授業者に関しては授業時の講評、提出物に関しては評価及び基準を付すことによりフィードバックする。</p>
履修上の留意点	<p>教職を目指す学生一人ひとりが、「授業をつくる主体」として参加する演習中心の授業である。グループワーク、課題解決型学修（チュートリアル型）、模擬授業を多く取り入れる。積極的に取り組んで、授業者になるためのスキルを身につけてほしい。</p> <p>教員免許に関わる科目であり、できる限り欠席しないことが望ましい。なお、3分の1以上欠席した場合は原則として単位を認めない。</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・町田守弘『実践国語科教育法』（学文社） ・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編（文部科学省） ・高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編（文部科学省）
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教科書『国語1』『国語2』『国語3』令和3年度版（光村図書） ・ " 『新しい国語1』『新しい国語2』『新しい国語3』令和3年度版（東京書籍） ・高等学校教科書『精選 現代の国語』『精選 言語文化』令和4年度版（東京書籍） ・ " 『新編 現代の国語』『新編 言語文化』令和4年度版（東京書籍） ・『指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 中学校 国語』（東洋館出版社） ・『指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 高等学校 国語』（東洋館出版社） <p>その他必要に応じて適宜紹介する。</p>
教員e-mailアドレス	endo-k@morioka-u. ac. jp
オフィスアワー	研究室（A校舎4階404研究室）前に掲示。

講義科目名称： 国語科教育法Ⅳ

授業コード：

英文科目名称： —

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
遠藤 可奈子			
文学部DP(1)に関連	教職科目—中高	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	国語教員を目指す学生の必修科目 国語科の指導法（情報通信技術の活用を含む）
授業計画	<p>1 授業づくり演習 1 〈文学的文章の授業〉 教材研究</p> <p>2 授業づくり演習 1 〈文学的文章の授業〉 授業計画と学習指導案</p> <p>3 授業づくり演習 1 〈文学的文章の授業〉 ショート模擬授業</p> <p>4 授業づくり演習 1 〈文学的文章の授業〉 模擬授業と振り返り</p> <p>5 読書指導-講義と演習（ビブリオバトル）</p> <p>6 授業づくり演習 2 〈中学校古典の授業〉 教材研究</p> <p>7 授業づくり演習 2 〈中学校古典の授業〉 授業計画と学習指導案</p> <p>8 授業づくり演習 2 〈中学校古典の授業〉 古典-ショート模擬授業</p> <p>9 授業づくり演習 2 〈中学校古典の授業〉 模擬授業と振り返り</p> <p>10 授業づくり演習 3 〈詩・短歌・俳句の授業〉 教材研究</p> <p>11 授業づくり演習 3 〈詩・短歌・俳句の授業〉 学習指導案</p> <p>12 授業づくり演習 3 〈詩・短歌・俳句の授業〉 模擬授業と振り返り</p> <p>13 授業実践を学ぶ（学外授業）</p> <p>14 国語科教育の課題と実践研究</p> <p>15 まとめと振り返り</p>
授業のねらい及び概要	<p>中学校・高等学校の国語科教員を目指す学生の必修科目である。 前期「国語科教育法Ⅲ」履修した学生を対象として、学習指導要領の深い理解に基づく授業と評価の方法をはじめ国語科教員として必要な専門的力を身に付けることをねらいとする。 授業は、模擬授業、グループワークを中心に行い、学外授業として地域の中学校に出向いて授業を参観する。 また「国語科教育法Ⅳ」は国語2種免の取得希望学生を含む科目である。多様な視点から意見交換することを期待したい。</p> <p>なお本科目の担当は実務家教員であり、高等学校国語科教員としての37年間（10年間の管理職経験を含む）の経験を活かした実践的な指導を行う。</p>
到達目標	<p>到達目標1 国語科教育の意義及び学習指導要領の趣旨を理解し、説明することができる。</p> <p>到達目標2 学習指導要領を踏まえた授業と評価の方法を理解し、説明することができる。</p> <p>到達目標3 教材研究に基づいて授業計画・学習指導案を作成し、授業することができる。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>

事前・事後学修	<p>事前・事後学修として、次の①②を要する。</p> <p>①授業時の指示により、教材研究、学習指導案作成（word作成）、模擬授業準備等を行う。</p> <p>②テキストや配布資料を読む。 関連書籍等（テキスト章末の参考文献、教材研究や授業実践に関する図書他）により理解を深める。 ※90分を標準とするが、場合により180分程度必要。</p> <p>古典及び近現代の文学作品や様々な分野の評論・論説等を読んで広く深い知識・教養を身につけることが豊かな授業づくりに繋がるので、心がけてほしい。 なお正しく読みやすい文字を正しい筆順で書くことは国語科教員の必須スキルであり、各自努めること。</p>
評価方法	<p>評価は、確認テスト（20%）、発表・模擬授業及び提出物（50%）、出席及び授業への取り組み（30%）を基本として、総合的に判断する。 なお模擬授業者に関しては授業時の講評、提出物に関しては評価及び基準を付すことによりフィードバックする。</p>
履修上の留意点	<p>教職を目指す学生一人ひとりが、「授業をつくる主体」として参加する演習中心の授業である。グループワーク、課題解決型学修（テュートリアル型）、模擬授業を多く取り入れる。積極的に取り組んで、授業者となるためのスキルを身につけてほしい。 教員免許に関わる科目であり、できる限り欠席しないことが望ましい。なお、3分の1以上欠席した場合は原則として単位を認めない。</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・町田守弘『実践国語科教育法』（学文社） ・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編（文部科学省） ・高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編（文部科学省） <p>※すべて前期「国語科教育法Ⅲ」に同じ。</p>
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教科書『国語1』『国語2』『国語3』令和3年度版（光村図書） ・ " 『新しい国語1』『新しい国語2』『新しい国語3』令和3年度版（東京書籍） ・高等学校教科書『精選 現代の国語』『精選 言語文化』令和4年度版（東京書籍） ・ " 『新編 現代の国語』『新編 言語文化』令和4年度版（東京書籍） ・『指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 中学校 国語』（東洋館出版社） ・『指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 高等学校 国語』（東洋館出版社） <p>その他必要に応じて適宜紹介する。</p>
教員e-mailアドレス	endo-k@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室（A校舎4階404研究室）前に掲示。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
遠藤 可奈子			
文学部DP(1)に関連	教職科目—中高	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	中・高国語科教員免許取得の必修科目 国語科の指導法（情報通信技術の活用を含む）
授業計画	<p>1 ガイダンス—国語科教育の意義と内容</p> <p>2 学習指導要領と国語科教育</p> <p>3 教材研究と授業</p> <p>4 授業計画と学習指導案</p> <p>5 授業づくりの実際 1 〈中学校の授業〉教材研究</p> <p>6 授業づくりの実際 1 〈中学校の授業〉授業計画</p> <p>7 授業づくりの実際 1 〈中学校の授業〉学習指導案</p> <p>8 授業づくりの実際 1 〈中学校の授業〉ショート模擬授業</p> <p>9 授業づくりの実際 1 〈中学校の授業〉模擬授業と振り返り</p> <p>10 授業づくりの実際 2 〈高校の授業〉教材研究</p> <p>11 授業づくりの実際 2 〈高校の授業〉授業計画</p> <p>12 授業づくりの実際 2 〈高校の授業〉学習指導案</p> <p>13 授業づくりの実際 2 〈高校の授業〉ショート模擬授業</p> <p>14 授業づくりの実際 2 〈高校の授業〉模擬授業と振り返り</p> <p>15 まとめと振り返り</p>
授業のねらい及び概要	<p>中学校・高等学校の国語科教員を目指す学生の必修科目である。</p> <p>学習者として学んできた国語を授業者の立場でより深く学ぶとともに、学習指導要領を理解し、国語科教員として必要な専門的知識・技能及び授業の方法等を身につけることをねらいとする。 前半はテキスト等を用いて理論を学び、後半では演習や模擬授業を取り入れて実践的に学ぶ。</p> <p>なお本科目の担当は実務家教員であり、高等学校国語科教員としての37年間（10年間の管理職経験を含む）の経験を活かした実践的な指導を行う。</p>
到達目標	<p>到達目標1 国語科教育の意義及び学習指導要領の趣旨を理解し、説明することができる。</p> <p>到達目標2 学習指導要領を踏まえた授業と評価の方法を理解し、説明することができる。</p> <p>到達目標3 教材研究に基づいて授業計画・学習指導案を作成し、授業することができる。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>

事前・事後学修	<p>事前・事後学修として、次の①②を要する。</p> <p>①授業時の指示により、教材研究、学習指導案作成（word作成）、模擬授業準備等を行う。</p> <p>②テキストや配布資料を読む。 関連書籍等（テキスト章末の参考文献、教材研究や授業実践に関する図書他）により理解を深める。 ※90分を標準とするが、場合により180分程度必要。</p> <p>古典及び近現代の文学作品や様々な分野の評論・論説等を読んで広く深い知識・教養を身につけることが豊かな授業づくりに繋がるので、心がけてほしい。 なお正しく読みやすい文字を正しい筆順で書くことは国語科教員の必須スキルであり、各自努めること。</p>
評価方法	<p>評価は、テスト（20%）、発表・模擬授業及び提出物（50%）、出席及び授業への取り組み（30%）を基本として、総合的に判断する。 なお模擬授業者に関しては授業時の講評、提出物に関しては評価及び基準を付すことによりフィードバックする。</p>
履修上の留意点	<p>教職を目指す学生一人ひとりが、「授業をつくる主体」として参加する演習中心の授業である。グループワーク、課題解決型学修（テュートリアル型）、模擬授業を多く取り入れる。積極的に取り組んで、授業者となるためのスキルを身につけてほしい。 教員免許に関わる科目であり、できる限り欠席しないことが望ましい。なお、3分の1以上欠席した場合は原則として単位を認めない。</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大学国語教育学会編『新たな時代の学びを創る 中学校・高等学校国語科教育研究』（東洋館出版社） ・『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』文部科学省（東洋館出版社） ・『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 国語編』文部科学省（東洋館出版社）
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教科書『国語1』『国語2』『国語3』令和3年度版（光村図書） ・ " 『新しい国語1』『新しい国語2』『新しい国語3』令和3年度版（東京書籍） ・高等学校教科書『精選 現代の国語』『精選 言語文化』令和4年度版（東京書籍） ・ " 『新編 現代の国語』『新編 言語文化』令和4年度版（東京書籍） ・『指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 中学校 国語』（東洋館出版社） ・『指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 高等学校 国語』（東洋館出版社） <p>その他必要に応じて適宜紹介する。</p>
教員e-mailアドレス	endo-k@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室（A校舎4階404研究室）前に掲示。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
福本 郁子			
日文DP（1）に関連	日一専門一漢文学科目	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	漢文訓読法の基礎的知識を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス テキスト・授業方法・評価方法・図書館利用法及び文献検索法の説明</p> <p>第2回 訓読の基本 漢和辞典のひき方・図書館利用法及び文献検索法・訓読の基本（返り点・送り仮名・置き字・書き下し文等）の説明</p> <p>第3回 漢文の基本構造 漢文の基本的な構造の説明と演習問題</p> <p>第4回 再読文字の句形 再読文字の説明と演習問題</p> <p>第5回 否定の句形①（簡単な否定・部分否定） 簡単な否定と部分否定の句形の説明と演習問題</p> <p>第6回 否定の句形②（二重否定） 様々な二重否定の句形の説明と演習問題</p> <p>第7回 使役の句形 使役の句形の説明と演習問題</p> <p>第8回 受身の句形 受身の句形の説明と演習問題</p> <p>第9回 比較・選択の句形①（「…於（乎）…」 「…不如（不若）…」 「…莫如（莫若）…」等） 比較・選択の句形の説明と演習問題</p> <p>第10回 比較・選択の句形②（「…孰若（孰与）…」 「…寧…、無（不）…」 「与其…」等） 比較・選択の句形の説明と演習問題</p> <p>第11回 抑揚の句形 抑揚の句形の説明と演習問題</p> <p>第12回 疑問と反語の句形①（「何…」 「何以…」 「安（悪・寧）…」 「孰…」等） 疑問と反語の句形の説明と演習問題</p> <p>第13回 疑問と反語の句形②（「誰…」 「何為…」 「…何也（何哉）」 「…如何（若何・奈何）」等） 疑問と反語の句形の説明と演習問題</p> <p>第14回 疑問と反語の句形③（「…何如（何若）」 「何不…」 「敢不…（乎）」 「何…之有」等） 疑問と反語の句形の説明と演習問題</p> <p>第15回 感動の句形・まとめ 感動の句形の説明と演習問題・全体のまとめ</p>
授業のねらい及び概要	大学の古文や漢文の授業を受講するに当たっては、高校で習得した漢文訓読法の基礎的知識が必要不可欠となる。そこで高等学校国語科（古文・漢文）での実務経験に基づいて、漢文の基本構造及び基本句形等の基礎的知識を復習するという形で授業を行う。具体的には受講生が長文読解問題を解き、それを教員が解説するという形式で授業を進める。 情報リテラシー〔第1回～第2回〕
到達目標	<p>到達目標1 1. 基礎的な漢文訓読法を正しく理解できる。</p> <p>到達目標2 2. 基礎的漢文訓読法をもとに、漢和辞典を使用して独力で古典漢文を読むことができる。</p> <p>到達目標3 3. 基礎的漢文訓読法をもとに、漢和辞典を使用して独力で古典漢文を日本語に訳することができる。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>
事前・事後学修	テキストとなるプリントにはあらかじめ返り点・送り仮名が附してあるので、わからない漢字は漢和辞典をこまめにひき、意味を考えながら自力で読み進める予習をすること。漢和辞典を使ってもわからなかった部分は質問事項としてひかえておくとよい。その場合、「何」が「どのように」わからなかったのかを明確にしておくこと。予習時間の目安は2～3時間。

	時間をかけて予習を行ってれば、復習は必ずしも必要ない。予習の時点でわからなかった部分、間違っ部分の再確認をする程度の復習でよい。時間の目安は2時間程度。
評価方法	定期試験50%、受講態度（質問への回答、積極的発言等）30%、小テスト20% 小テストに対しては、翌週、解答及び解説を行う。定期試験に対しては、必要な場合はメールによる講評という形でフィードバックする。
履修上の留意点	漢和辞典必携のこと。
テキスト	授業時配布プリント及び、数研出版編集部編『体系漢文』（数研出版 594円 ISBN 978-4-410-34302-5）。他の漢文の授業や高校在学中に上記テキストをすでに購入している場合や、『精選漢文』（尚文出版）、『漢文必携』（桐原書店）をすでに持っている場合は、購入する必要はない。
参考文献	吉川幸次郎『漢文の話』（ちくま文庫・筑摩書房 2006年）ISBN-13 978-4480090270 加藤徹『漢文力』（中公文庫・中央公論新社 2007年）ISBN-13 978-4122049024 加藤徹『漢文の素養』（光文社新書・光文社 2006年）ISBN-13 978-4334033422 西田太郎『漢文法要説』（朋友書店 2004年）ISBN-13 978-4892810534 『漢辞海』（三省堂書店 2016年）ISBN-13 978-4385140483 『新字源』（角川書店 2017年）ISBN-13 978-4044003333
教員e-mailアドレス	fukumoto@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	A校舎4階 LA407 研究室前に掲示。

講義科目名称： 中国文学概論

授業コード：

英文科目名称： —

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	【日】必修
担当教員			
福本 郁子			
日文DP（1）に関連	日一専門一漢文学科目	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	『詩経』の詩から唐代までの詩を漢文訓読法で読む。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 韻文（詩）と散文（文）について</p> <p>第2回 『詩経』の詩を読む① 『詩経』周南・桃夭篇を解釈する</p> <p>第3回 『詩経』の詩を読む② 『詩経』ヨウ風・テイトウ篇を解釈する</p> <p>第4回 『詩経』の詩を読む③ 『詩経』秦風・黄鳥篇を解釈する</p> <p>第5回 漢代の詩を読む① 項羽「垓下歌」を解釈する</p> <p>第6回 漢代の詩を読む② 蘇武「詩四首（其三）」を解釈する</p> <p>第7回 漢代の詩を読む③ 班ショウ好「怨歌行」を解釈する</p> <p>第8回 古詩十九首を読む① 古詩十九首（其一）「行行重行行」の解釈</p> <p>第9回 古詩十九首を読む② 古詩十九首（其十四）「去者日以疎」の解釈</p> <p>第10回 唐代の詩を読む① 王昌齡「閨怨」「西宮春怨」を解釈する</p> <p>第11回 唐代の詩を読む② 王之涣「涼州詞」、李白「子夜呉歌」を解釈する</p> <p>第12回 唐代の詩を読む③ 杜甫「春望」「新婚別」を解釈する</p> <p>第13回 唐代の詩を読む④ 杜甫「石壕吏」を解釈する</p> <p>第14回 唐代の詩を読む⑤ 張継「楓橋夜泊」、杜牧「泊秦淮」を解釈する</p> <p>第15回 まとめ 詩にうたわれた「人間の普遍性」について考える</p>
授業のねらい及び概要	<p>中国最古の詩集である『詩経』の詩に始まり、漢代、六朝時代を経て唐代に至るまでの著名な詩を漢文訓読法で読み、作詩のスタイルがどのように変化し、整っていったかを概観する。同時に作詩の時代背景や意図を読み取り、そこにうたわれた人間の普遍性をも読み解くことを目的とする。また本講義を受講するに当たり、高校で習得した漢文訓読法の基礎的知識が必要不可欠となるが、その習得に不安がある受講生に対しては個別に対応する。その際、高等学校国語科（古文・漢文）での実務経験に基づいて、漢文の基本構造及び基本句形等の基礎的知識を自主的に復習できるよう指導を行う。</p> <p>情報リテラシー（図書館利用法・文献検索法・データベース活用法等）に関する指導を適宜行う。</p>
到達目標	<p>到達目標1 1. 漢詩特有の漢文訓読法で詩を読むことができる。</p> <p>到達目標2 2. 古いスタイルの詩（古体詩）と、唐代に入ってから作られるようになった新しいスタイルの詩（近体詩）の作詩上の規則の違いを理解できる。</p> <p>到達目標3 3. 中国古典の言葉の意味や作詩の背景などを正確に理解することで、作者の意図や詩の普遍的な意味を読み解くことができる。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>
事前・事後学修	<p>テキストとなるプリントにはあらかじめ返り点・送り仮名が附してあるので、わからない漢字は漢和辞典をこまめにひき、意味を考えながら自力で読み進める予習をすること。漢和辞典を使ってもわからなかった部分は</p>

	質問事項としてひかえておくとよい。その場合、「何」が「どのように」わからなかったのかを明確にしておくこと。予習時間の目安は2～3時間。 時間をかけて予習を行ってれば、復習は必ずしも必要ない。予習の時点でわからなかった部分、間違っ部分の再確認をする程度の復習でよい。時間の目安は2時間程度。
評価方法	定期試験50%、受講態度（積極的発言等）20%、小テスト30% 小テストに対しては、翌週、解答及び解説を行い、定期試験に対しては、必要な場合はメールによる講評という形でフィードバックする。
履修上の留意点	漢和辞典必携のこと。
テキスト	授業時配布プリント及び、数研出版編集部編『体系漢文』（数研出版 594円 ISBN 978-4-410-34302-5）。 他の漢文の授業や高校在学中に上記テキストをすでに購入している場合や、『精選漢文』（尚文出版）、『漢文必携』（桐原書店）をすでに持っている場合は、購入する必要はない。
参考文献	石川忠久等『詩経』上（新釈漢文大系110・明治書院 1997年）ISBN-13 978-4625571107 石川忠久等『詩経』中（新釈漢文大系111・明治書院 1998年）ISBN-13 978-4625571114 内田泉之助等『文選』詩篇上（新釈漢文大系14・明治書院 1963年）ISBN-13 978-4625570148 内田泉之助等『文選』詩篇下（新釈漢文大系15・明治書院 1964年）ISBN-13 978-4625570155 目加田誠『唐詩選』（新釈漢文大系19・明治書院 1964年）ISBN-13 978-4625570193 『漢辞海』（三省堂書店 2016年）ISBN-13 978-4385140483 『新字源』（角川書店 2017年）ISBN-13 978-4044003333
教員e-mailアドレス	fukumoto@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	A校舎4階 LA407 研究室前に掲示。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	【日】必修
担当教員			
福本 郁子			
日文DP（1）に関連	日一専門一漢文学科目	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	司馬遷『史記』刺客列伝を漢文訓読法で読む。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス テキスト・授業方法・評価方法等の説明</p> <p>第2回 司馬遷と『史記』 司馬遷の生涯、『史記』編纂までの経緯、「李陵の禍」について</p> <p>第3回 刺客列伝（曹カイ）「曹カイ者、魯人也。……曹カイ三戦所亡地、尽復予魯」を読む</p> <p>第4回 刺客列伝（専諸①）「専諸者、呉邑人也。…光既得専諸、善客待之」を読む</p> <p>第5回 刺客列伝（専諸②）「九年而楚平王死。……闔閭乃封専諸之子以為上卿」を読む</p> <p>第6回 刺客列伝（予讓①）「予讓者、晋人也。……卒積去之」を読む</p> <p>第7回 刺客列伝（予讓②）「居頃之、予讓又漆身……使人問之、果予讓也」を読む</p> <p>第8回 刺客列伝（予讓③）「於是襄子乃数予讓曰、……趙国志士聞之、皆為涕泣」を読む</p> <p>第9回 刺客列伝（聶政①）「聶政者、シ深井里人也。……聶政驚怪其厚、固謝嚴仲子」を読む</p> <p>第10回 刺客列伝（聶政②）「嚴仲子固進。……嚴仲子卒備賓主之礼而去」を読む</p> <p>第11回 刺客列伝（聶政③）「久之、聶政母死。……宗族盛多、居処兵衛甚設」を読む</p> <p>第12回 刺客列伝（聶政④）「臣欲使人刺之、終莫能就。……自屠出腸、遂以死」を読む</p> <p>第13回 刺客列伝（聶政⑤）「韓取聶政屍暴於市、……嚴仲子乃察举吾弟困汚之中而交之」を読む</p> <p>第14回 刺客列伝（聶政⑥）「沢厚矣。……嚴仲子亦可謂知人能得士矣」を読む</p> <p>第15回 刺客列伝の主題 刺客列伝の主題と人間の普遍性について</p>
授業のねらい及び概要	<p>中国最初の正史である司馬遷『史記』の中から、我が国でも広く親しまれてきた刺客列伝を取り上げる。これを漢文訓読法によって読み、文の構造や言葉の意味などを正確に理解し、春秋・戦国時代を生きた様々な人々と、現代を生きる我々との間に存する普遍性について考える。また本講義を受講するに当たり、高校で習得した漢文訓読法の基礎的知識が必要不可欠となるが、その習得に不安がある受講生に対しては個別に対応する。その際、高等学校国語科（古文・漢文）での実務経験に基づいて、漢文の基本構造及び基本句形等の基礎的知識を自主的に復習できるよう指導を行う。</p> <p>情報リテラシー（図書館利用法・文献検索法・データベース活用法等）に関する指導を適宜行う。</p>
到達目標	<p>到達目標1 1. 基礎的な漢文訓読法を応用することができる。</p> <p>到達目標2 2. 漢和辞典を使用して独力で古典漢文を読むことができる。</p> <p>到達目標3 3. 漢和辞典を使用して独力で古典漢文を日本語に訳することができる。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>
事前・事後学修	<p>テキストとなるプリントにはあらかじめ返り点・送り仮名が附してあるので、わからない漢字は漢和辞典をこまめにひき、意味を考えながら自力で読み進める予習をすること。漢和辞典を使ってもわからなかった部分は質問事項としてひかえておくとよい。その場合、「何」が「どのように」わからなかったのかを明確にしておくこと。予習時間の目安は2～3時間。</p>

	時間をかけて予習を行ってれば、復習は必ずしも必要ない。予習の時点でわからなかった部分、間違った部分の再確認をする程度の復習でよい。時間の目安は2時間程度。
評価方法	定期試験50%、受講態度（積極的発言等）20%、小テスト30% 小テストに対しては、翌週、解答及び解説を行い、定期試験に対しては、必要な場合はメールによる講評という形でフィードバックする。
履修上の留意点	漢和辞典必携のこと。
テキスト	授業時配布プリント及び、数研出版編集部編『体系漢文』（数研出版 594円 ISBN 978-4-410-34302-5）。他の漢文の授業や高校在学中に上記テキストをすでに購入している場合や、『精選漢文』（尚文出版）、『漢文必携』（桐原書店）をすでに持っている場合は、購入する必要はない。
参考文献	青木五郎等『史記の事典』（大修館書店 2002年）ISBN-13 978-4469032130 『漢辞海』（三省堂書店 2016年）ISBN-13 978-4385140483 『新字源』（角川書店 2017年）ISBN-13 978-4044003333
教員e-mailアドレス	fukumoto@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	A校舎4階 LA407 研究室前に掲示。

講義科目名称： 博物館概論

授業コード：

英文科目名称： —

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
吉田 泰幸			
文学部DP(1)に関連	社－専門－基盤科目	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	博物館は何をしているのか、学芸員はどういう人々なのかを知る
授業計画	<p>1 イントロダクション： Museum、博物館、美術館、ギャラリー、宝物館、、、</p> <p>2 博物館のイメージ1： 博物館は何を集めているのか</p> <p>3 博物館のイメージ2： 博物館は何を伝えているのか</p> <p>4 博物館のイメージ3： 学芸員は博物館で何をしているのか</p> <p>5 博物館の歴史1： 「驚異の部屋」</p> <p>6 博物館の歴史2： 万国博覧会と博物館</p> <p>7 博物館の歴史3： 近代国民国家と博物館</p> <p>8 博物館の歴史4： 近年の博物館・美術館</p> <p>9 博物館法を読む1： 博物館法の概要</p> <p>10 博物館法を読む2： 博物館法の重要な条文</p> <p>11 博物館法を読む3： 博物館法改正議論</p> <p>12 ICOM（国際博物館会議）1： ICOMの博物館定義</p> <p>13 ICOM（国際博物館会議）2： ICOMの博物館定義改訂議論1</p> <p>14 ICOM（国際博物館会議）3： ICOMの博物館定義改訂議論2</p> <p>15 まとめにかえて： 博物館の未来</p>
授業のねらい及び概要	<p>本授業は博物館勤務経験を有する教員によるものであり、博物館法・ICOM（国際博物館会議）決議と学芸員業務の関係等、実践的な内容を含む。</p> <p>本授業で扱う「博物館」の範囲は広く、博物館と名がつく施設だけでなく、美術館、ギャラリー、宝物館、動物園、植物園等々、様々な施設を「博物館」として扱う。というより、もともと博物館は多様な施設・機能を包含しており、その活動内容も多岐にわたっている。博物館の多様さの由来は、博物館の歴史を辿ることで理解できる。本授業はまず、博物館の歴史を学ぶことによって、受講者それぞれの「博物館」イメージが更新されることを目的とする。</p> <p>次に、博物館法とICOM（国際博物館会議）決議を読むことをとおして、国内的な博物館の位置付けと、博物館をめぐる国際的な動向に通じることを目指す。</p> <p>いくつかの回で次回の授業に関連した小レポート課題を課す（それをもとに授業を進める） [双方向アンケート]</p>
到達目標	<p>到達目標1 博物館のイメージを更新する</p> <p>到達目標2 博物館の複数の成り立ちを区別し、説明できる</p> <p>到達目標3 博物館についての国内法の特徴を説明できる</p> <p>到達目標4 ICOM（国際博物館会議）にみる博物館の国際的動向を説明できる</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p>

	到達目標7 到達目標8
事前・事後学修	事前：小レポート課題が課された際には、参考文献やウェブサイト等を参考にレポートを執筆する。繰り返し博物館法・ICOMによる博物館の定義・ICOM決議（参考文献内リンク参照）を読む（90分） 事後：授業内でふれた博物館・学芸員の話題について参考文献やウェブサイト等で調べて復習する（90分） 授業期間中：岩手県内・県外問わず、博物館・資料館を見学する（1～2日）
評価方法	最終レポートの内容（70%） 小レポートの内容（30%）
履修上の留意点	学芸員課程必修科目。この科目の単位未修得者は「博物館実習」の履修を制限することがあるので注意すること。
テキスト	使用しない、適宜資料を配布する。
参考文献	博物館法： https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=326AC1000000285 Museum Definition of ICOM: https://icom.museum/en/resources/standards-guidelines/museum-definition/Resolutions adopted by ICOM' s 34th General Assembly : https://icom.museum/wp-content/uploads/2019/09/Resolutions_2019_EN.pdf 稲村哲也. 2019. 博物館概論. 東京: 放送大学教育振興会. 吉田憲司. 1999. 文化の「発見」. 東京: 岩波書店.
教員e-mailアドレス	yyasuyuki@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	LA213研究室に掲示

講義科目名称： 博物館経営論

授業コード：

英文科目名称： —

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
吉田 泰幸			
社文DP(1)・(2)に関連	社文—専門—展開科目	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	博物館マニフェストを考えることは博物館の経営を考えることである
授業計画	<p>1 イントロダクション： 博物館と経営</p> <p>2 博物館にとって経営とは： P. ドラッカー著『非営利組織の経営』と博物館</p> <p>3 三つの世代の博物館論について： 第三世代博物館は実現しているか</p> <p>4 博物館と指定管理者制度1： 制度の概要</p> <p>5 博物館と指定管理者制度2： 制度導入の背景</p> <p>6 フランス国立自然史博物館『ミュージアムマニフェスト』を読む1</p> <p>7 フランス国立自然史博物館『ミュージアムマニフェスト』を読む2</p> <p>8 フランス国立自然史博物館『ミュージアムマニフェスト』を読む3</p> <p>9 フランス国立自然史博物館『ミュージアムマニフェスト』を読む4</p> <p>10 フランス国立自然史博物館『ミュージアムマニフェスト』を読む5</p> <p>11 フランス国立自然史博物館『ミュージアムマニフェスト』を読む6</p> <p>12 フランス国立自然史博物館『ミュージアムマニフェスト』を読む7</p> <p>13 フランス国立自然史博物館『ミュージアムマニフェスト』を読む8</p> <p>14 フランス国立自然史博物館『ミュージアムマニフェスト』を読む9</p> <p>15 まとめにかえて： 博物館経営の未来</p>
授業のねらい及び概要	<p>本授業は博物館勤務経験を有する教員によるものであり、マネジメント理論と学芸員業務の関係等、実践的な内容を含む。</p> <p>UNESCO（国際連合教育科学文化機関）はミュージアムを「社会とその発展に奉仕する非営利の恒久的な施設」としている。日本で知名度の高い経営学者、ピーター・ドラッカーは経営＝マネジメントは非営利組織にとって特に重要であり、ミッションとリーダーシップが非営利組織の経営にとって鍵になると述べた。</p> <p>本授業では博物館の行動指針として日本の伊藤寿朗による「三つの世代の博物館論」、フランスの複数分野の指導的な研究者が共同で作りあげたフランス国立自然史博物館『ミュージアムマニフェスト』を取り上げる。そして、両者の理解を架空の／実在する博物館のマニフェスト・企画制作に落とし込む体験をとおして博物館にとっての経営とは何かを学ぶ。</p> <p>いくつかの回で次回の授業に関連した小レポート課題を課す（小レポートをもとに授業を進めることがある） [双方向アンケート] 架空／実在の博物館のマニフェスト・企画制作を行う [ロールプレイ]</p>
到達目標	<p>到達目標1 経営＝マネジメントとは何かを説明できる</p> <p>到達目標2 三つの世代の博物館論におけるそれぞれの世代の博物館の特徴を区別し、説明することができる</p> <p>到達目標3 フランス国立自然史博物館『ミュージアムマニフェスト』の特徴と課題を説明することができる</p> <p>到達目標4 フランス国立自然史博物館『ミュージアムマニフェスト』の理解を適用し、〇〇博物館マニフェストを構想することができる</p> <p>到達目標5</p>

	到達目標6 到達目標7 到達目標8
事前・事後学修	事前：小レポート課題が課された際には、参考文献やウェブサイト等を参考にレポートを執筆する。繰り返しフランス国立自然史博物館『ミュージアムマニフェスト』（英語版）を読む（90分） 事後：フランス国立自然史博物館『ミュージアムマニフェスト』を読むことで生じた疑問点について、参考文献やウェブサイト等で調べる（90分）
評価方法	最終レポートの成績（70%） 小レポートの内容（30%）（小レポートをもとに授業を進めることがある）
履修上の留意点	学芸員課程必修科目。この科目の単位未修得者は「博物館実習」の履修を制限することがあるので注意すること。
テキスト	使用しない、適宜資料を配布する。
参考文献	P.F. ドラッカー. 2007. 非営利組織の経営. ドラッカー名著集 4. 東京: ダイアモンド社. 稲村哲也・佐々木亨. 2019. 博物館経営論（新訂）. 東京: 放送大学教育振興会. 伊藤寿朗. 1993. 市民の中の博物館. 東京: 吉川弘文館. Muséum national d'histoire naturelle. 2017. Manifeste du muséum: Quel futur sans nature? Paris: MNHN. Muséum national d'histoire naturelle. 2018. Manifeste du muséum: Migrations. Paris: MNHN. Muséum national d'histoire naturelle. 2021. Manifeste du muséum: A Natural History of Violence. Paris: MNHN.
教員e-mailアドレス	yayasuyuki@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	LA213研究室に掲示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
吉田 泰幸			
文学部DP(1)に関連	社－専門－展開科目	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	文化財・文化遺産の真正性 (authenticity) を再考する
授業計画	<p>1 イントロダクション：文化財、文化遺産、文化資源</p> <p>2 文化財保護法を読む1：文化財保護法の構造</p> <p>3 文化財保護法を読む2：文化財保護法の重要条文</p> <p>4 文化財保護法を読む3：文化財保護法のこれから</p> <p>5 文化財保護法改正議論1：改正の方向性</p> <p>6 文化財保護法改正議論2：文化／観光</p> <p>7 文化財保護法改正議論3：文化としての観光</p> <p>8 ユネスコ世界遺産ヴァーチャルツアー1</p> <p>9 ユネスコ世界遺産ヴァーチャルツアー2</p> <p>10 世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約を読む：条約の概要、重要性</p> <p>11 世界遺産の諸問題1：登録プロセス</p> <p>12 世界遺産の諸問題2：ヴェニス憲章と奈良ドキュメント</p> <p>13 文化遺産のオーセンティシティ1</p> <p>14 文化遺産のオーセンティシティ2</p> <p>15 まとめにかえて：文化財、文化遺産の未来</p>
授業のねらい及び概要	<p>本授業は博物館勤務経験および日本の文化遺産の国際発信の経験を有する教員によるものであり、文化財保護法・世界遺産に関する憲章・決議と学芸員業務の関係等、実践的な内容を含む。</p> <p>1950年の文化財保護法施行以来、「文化財」という概念が一般的だった日本において「文化遺産」という用語が定着したのは、日本が世界遺産条約締結国となった1992年以降のことである。世界遺産は人類普遍の価値を謳っているが、西欧中心の価値観で遺産が選定・登録されているという批判が常にある。1994年に採択された「オーセンティシティに関する奈良ドキュメント」は、世界遺産の選定・登録において重視される「真正性（オーセンティシティ）」について、非西欧的なあり方を探求する契機となった。「奈良ドキュメント」は日本を含むアジアなどの木造建築をめぐる「真正性」の議論がきっかけとなっている。このことから、文化財・文化遺産の「真正性」を再考することは、文化財・文化遺産全体の未来を構想することにも繋がる。</p> <p>いくつかの回で次回の授業に関連した小レポート課題を課す（それをもとに授業を進める）〔双方向アンケート〕</p>
到達目標	<p>到達目標1 文化財保護法の特徴・改正議論の要点を説明できる</p> <p>到達目標2 世界遺産の特徴・問題点を説明できる</p> <p>到達目標3 「ヴェニス憲章」の特徴・問題点を説明できる</p> <p>到達目標4 「奈良ドキュメント」の特徴・問題点を説明できる</p> <p>到達目標5 真正性 (authenticity) の多義性について、それらを区別し説明することができる</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p>

	到達目標8
事前・事後学修	事前：小レポート課題が課された際には、参考文献やウェブサイト等を参考にレポートを執筆する。繰り返し文化財保護法・世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約・ヴェニス憲章・奈良ドキュメント（参考文献内リンク参照）を読む（90分） 事後：授業内でふれた世界遺産・日本遺産について参考文献やウェブサイト等で調べて復習する（90分） 授業期間中：岩手県内・県外問わず、世界遺産または日本遺産を見学する（1～2日）
評価方法	最終レポートの内容（70%） 小レポートの内容（30%）
履修上の留意点	学芸員課程必修科目。この科目の単位未修得者は「博物館実習」の履修を制限することがあるので注意すること。
テキスト	使用しない、適宜資料を配布する。
参考文献	文化財保護法： https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=325AC1000000214 世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約： https://www.env.go.jp/nature/isan/kento/030303/ref_01.pdf ヴェニス憲章： http://www.japan-icomos.org/charters/venice.pdf 奈良ドキュメント： http://www.japan-icomos.org/charters/nara.pdf Bruner, Edward M. 1994. Abraham Lincoln as Authentic Reproduction: A Critique of Postmodernism. <i>American Anthropologist</i> 96(2): 397-415.
教員e-mailアドレス	yyasuyuki@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	LA213研究室に掲示

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2	選択
担当教員			
佐藤 貴保・吉田 泰幸			
社文DP(1)・(2)に関連	社一専門一専門研究科目	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	確実な資料の取り扱い方を体得する
授業計画	<p>1 博物館実習にあたって 受講者を3～5人ずつの班に分ける。受講者どうしのコミュニケーションを図るため自己紹介を行う。その後、学内実習の概要や持ち物、服装について説明する。</p> <p>2 陶磁器の取り扱いと展示法</p> <p>3 陶磁器鑑賞の基礎</p> <p>4 掛け軸の取り扱い</p> <p>5 掛け軸鑑賞の基礎、解説文の作成</p> <p>6 くずし字の解説・文書類の調書作成</p> <p>7 書籍の分類と調書作成、和綴本の作成 各自、裁縫用具（糸、縫い針、はさみ）を用意すること</p> <p>8 拓本作成の基礎、フロッタージュ 各自、色鉛筆もしくはクレヨン、新聞紙を用意すること</p> <p>9 湿拓の作成 各自、新聞紙を用意すること</p> <p>10 日本刀の歴史と鑑賞法</p> <p>11 日本刀の取り扱い</p> <p>12 資料写真撮影の基礎 各自、一眼レフカメラ、ミラーレス一眼カメラ、コンパクトデジタルカメラ（マニュアルモードがあるもの）、カメラ付スマートフォンがあれば持参すること</p> <p>13 資料の写真撮影 各自、一眼レフカメラ、ミラーレス一眼カメラ、コンパクトデジタルカメラ（マニュアルモードがあるもの）、カメラ付スマートフォンがあれば持参すること</p> <p>14 資料の梱包 床での作業となるため、汚れてもよい服装で出席すること</p> <p>15 博物館見学実習 近隣の博物館を訪問し、館内の見学や館の職員へのインタビューを通じて、施設の状況、運営の実態、展示の詳細な分析、資料の保存管理などを学習する。見学後にレポートを提出してもらう。</p>
授業のねらい及び概要	<p>博物館実習は、学芸員資格取得のために必要な博物館における実務実習を伴う科目である。本学では法令上定められている3単位ではなく、前期・後期各2単位の計4単位としており、資格を取得するためにはこの講義だけでなく後期開講の博物館実習Ⅱも修得しなければならない。この博物館実習Ⅰは大きく3つの実習から構成されている。</p> <p>(1) 学内実習 夏季に集中する実務実習に向けて博物館資料の取り扱いに関する基礎的な知識と基本的な取扱い方、調書の作成のしかた、実習日誌の書き方を習得する。 取扱い技術などについては、その都度習得状況を実技試験で確認する。</p> <p>(2) 見学実習 近隣の博物館を訪問し、館内の見学や館の職員へのインタビューを通じて、施設の状況、運営の実態、展示の詳細な分析、資料の保存管理などを学習する。見学後にレポートを提出してもらう。</p> <p>(3) 館園実習（実習場所は、各地の登録博物館・相当施設を原則とする） 実習内容は、学芸活動を中心とする実務実習で、資料整理・保存・目録作成・展示・教育支援活動など実習場所によって内容・日程は異なる。実習にあたっては、博物館資料に直接触れる場合もあるので、資料に関する知識と確実な技術が求められる。毎日終業時までに実習日誌を執筆し、指導に当たっていただく学芸員に提出する義務がある。</p> <p>本講義の担当者の一人である吉田は博物館に勤務していた経験を有しており、その勤務経験をもとに資料の扱い方、調書の取り方、その他注意・注目すべき点を伝えていく。</p>

	実習 [すべての回の授業]
到達目標	到達目標1 陶磁器・掛軸・刀剣等の基本的な知識を修得するとともに、その取扱いが確実にできる。 到達目標2 資料の調書や展示の解説文を作成できるよう、資料を様々な側面から分析できる。 到達目標3 来館者からの質問に的確に答えられるように、資料に関わる幅広い知識を得て、コミュニケーションをとることができる。 到達目標4 到達目標5 到達目標6 到達目標7 到達目標8
事前・事後学修	博物館資料については、すでに本学が開講している学芸員課程の各講義でも説明がなされている。事前学修としてこれまでの講義で得た知識を復習し、博物館資料に対する基礎的な知識を理解しておくこと（所要90分）。 一度にたくさんの名称や扱い方を頭だけでなく体で覚える必要がある。事後学修として、実習で学んだことを反復してできる程度まで学習し、失敗を繰り返さないこと（所要90分）。
評価方法	館園実習先から提出された実習評価と実習日誌の記述評価（40%）、見学実習でのレポート内容（30%）と学内実習の実技試験（30%）を合わせ評価する。
履修上の留意点	この実習は、以下の1～3の条件を満たす者のみが履修できる。 1. 履修年度に卒業見込みであること。 2. 原則として、3年次終了までに博物館概論を修得していること。さらに1～3年次に開講されている学芸員課程の必修科目・選択必修科目のうち、博物館概論を含む22単位以上を修得していること。 3. 実習費を納入すること（詳細は第1回授業で説明する）。 その他留意事項 ・館園実習にあたっては実物資料を取り扱うことがあるので、事故の無いよう緊張感をもってあたること。そのためにも、学内実習では資料の取り扱い技術を確実に修得するためにも積極的に体験すること。特に館園実習では、実習受け入れ館への連絡・挨拶などに各自責任をもってあたること。 ・学内実習では3～5人の班を作る。メンバーとのコミュニケーションを綿密にとること。 ・館園実習では、欠席は原則認められないので、日程等を事前に確認しておくこと。 ・見学実習は近隣の博物館で休日（土・日）に実施する予定である。現地集合・解散となるが時間を厳守すること。 ・対人対物保険に必ず加入すること。
テキスト	特に用いない。実習の内容に応じてプリント等を配布する。
参考文献	『博物館資料取り扱いガイドブック 改訂版』ぎょうせい 『〇〇の鑑賞基礎知識』シリーズ、至文堂（やきもの、日本刀、漆製品、墨跡、かな、文人画 など） いずれも、図書館に開架。
教員e-mailアドレス	佐藤貴保: ta-sato@morioka-u.ac.jp 吉田泰幸: yyasuyuki@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	佐藤貴保: 研究室 (LA304) 前に掲示する 吉田泰幸: 研究室 (LA213) 前に掲示する

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	2	選択
担当教員			
佐藤 貴保・吉田 泰幸			
社文DP(1)・(2)に関連	社－専門－専門研究科目	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	柔軟なアイデアとチームワークで企画展示を構想する
授業計画	<p>1 共通テーマの発表、班員の役割分担 班編成を行い（各班から班長を1人選出する）、企画展示案共通の大テーマとその趣旨を説明する。各班で大テーマに即したテーマの選択に着手する。</p> <p>2 展示案テーマの検討 展示テーマを検討し、展示のねらいや大まかな展示構成、展示資料を調査する。</p> <p>3 展示のねらいを文章化する 展示案を検討するとともに、展示の主旨を「ねらい」という形で文章化する。</p> <p>4 展示案の検討 展示資料を調査し、展示室の平面図に大まかな配置を考える。</p> <p>5 展示案のヒヤリング 各班が展示の主旨を発表し、その主旨が第1回授業示された共通の大テーマに照らして適切かどうか議論する。</p> <p>6 実施要項の作成 展示期間や関連する事業、経費の概算を決定し、「実施要項」としてまとめる。</p> <p>7 展示資料の分析1 展示資料を確定し、資料名・法量・員数・時代・所有者・指定の有無などを記載した一覧表を作成する。</p> <p>8 展示資料の分析2、予算案の作成 展示資料の借用等に関する書類を作成する。また、詳細な予算を積算する。</p> <p>9 展示資料の分析3 個々の展示資料の解説プレートに用いる文章を作成する。</p> <p>10 中間報告 各班が企画の実施要項を発表して、来館者に興味を持ってもらえるような企画かどうか議論する。</p> <p>11 企画展図録の編集 展示資料一覧を作成し、資料の写真や解説文を載せた図録を編集する。</p> <p>12 ポスター・リーフレットの作成、企画展図録の確定 企画展の実施を市民に周知するためのポスター・リーフレットの図案や周知事項を吟味する。図録が適切なページ数や予算の範囲内で作成できるよう、レイアウト等の微調整を行う。</p> <p>13 作成資料の提出とプレゼン資料の作成 実施要項・予算積算書・工程表・展示配置図・ポスター・リーフレット・図録・展示資料一覧表・展示パネルの原稿等を提出する。第14回授業で行うプレゼンテーションは、パワーポイントによる発表形式をとるので、事前に資料や発表原稿を準備すること。</p> <p>14 最終報告 作成した展示案を、各班ごとにプレゼンテーションし、相互に評価する。</p> <p>15 見学実習 岩手県内外の博物館・博物館相当施設を訪問して、各施設の展示技法を見学するとともに、施設の経営の実態や課題について学芸員へのインタビューを行う。見学・インタビューを基にレポートを提出する。</p>
授業のねらい及び概要	<p>前期に行われた博物館での館園実習を踏まえ、後期の学内実習では3～5人の班を編成して班ごとに企画展の立案に取り組むグループワーク型授業を行う。各班は第1回実習で担当教員が提示した共通の大テーマと予算のもと、具体的な展示案や展示のねらいを決定し、予算積算書や関係書類（実施要項・工程表など）の作成、そしてポスターのデザインや図録の編集を行い、提出する。展示案作成にあたっては、できるだけ多角的な視点から、興味ある内容としてほしい。そのため随時、作成状況等に関してヒヤリングを行う。</p> <p>また、第15回授業は2日程度の日程で複数の博物館・博物館相当施設を訪問し、各館で実施している展示を見学し、職員に実際の活動や施設の状況についてインタビューしながら学が見学実習である（別途旅費を徴集する）。見学実習にあたっては、レポートの提出を課す。</p> <p>本講義の担当者の一人である吉田は博物館に勤務していた経験を有しており、その勤務経験をもとに、計画立案、予算案の策定、広報活動、展示技術の実態や、学芸員として守るべきルールなどを説明していく。</p> <p>グループワーク [すべての回の授業]、実習 [第1～4、6～9、11～13、15回授業]、プレゼンテーション [第5、10、14回授業]</p>
到達目標	到達目標1 与えられた大テーマや予算を基に来館者の興味をかきたてる展示ができるような企画力が身につく。

	到達目標2 到達目標3 到達目標4 到達目標5 到達目標6 到達目標7 到達目標8	ひとつの企画を作成するにあたって、チーム力を活用でき、かつ各自が担当する業務（調査研究、広報、教育普及、展示室のレイアウト、資料の選定、予算の編成等）に責任を持って取り組むことができる。 作成した企画の概要を、限られた時間で口頭発表や資料を用いた的確にプレゼンテーションし、アピールすることができる。
事前・事後学修	事前学修として、企画展案作成にあたっては調査研究活動が欠かせない。担当教員から紹介を受けたり、チームのメンバーが探し出した関係文献を読んだうえで、調査結果を展示にどのように生かせるのかを考え、授業の時間でメンバーと討議できるよう準備しておくこと（所要120分以上）。 事後学修として、授業の時間に示された自分が分担する作業を各自が責任をもって行うこと（所要60分以上）。	
評価方法	受講者の出席状況・実習への取り組み状況（40%）。 作成した企画展案について、各班ごとに15分程度のプレゼンテーションを行う。それを学生が相互に評価した結果を評価する（30%）。 見学実習の提出レポート（30%）。レポートは見学実習の採点終了後に返却するので、事後学修に役立てること。	
履修上の留意点	博物館実習Iを修得した者のみが履修できる。この授業では3～5人の班に分かれて活動する。 企画展案の作成にあたり、学外の機関や施設への調査等が必要な場合は、あらかじめ担当教員まで申し出ること。 授業中に資料調査や発表資料の作成等のために、パソコンやスマートフォンを使用することを許可する。 多くの受講者は、卒業研究論文の執筆と同時並行で作業を進めていくことになる。班内で特定の受講者に仕事が集中しないよう、メンバーの業務を適切に分担し、綿密にコミュニケーションをとること。	
テキスト	特に用いない。	
参考文献	受講者が立案する企画のテーマに近接する各種博物館が実施した企画展の図録・ポスター・リーフレットが参考となる。また、資料収集には企画のテーマについて扱った先行研究を参照する必要がある。立案するテーマによって読むべき参考文献は異なるので、それらは実習中に随時紹介する。	
教員e-mailアドレス	佐藤貴保: ta-sato@morioka-u.ac.jp 吉田泰幸: yyasuyuki@morioka-u.ac.jp	
オフィスアワー	佐藤貴保: 研究室 (LA304) 前に掲示する 吉田泰幸: 研究室 (LA213) 前に掲示する	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
上白石 実			
文学部DP(1)に関連	教職科目—中高	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	中学校社会科、高等学校地理歴史科教員として必要な基礎的知識・技能を養う。
授業計画	<p>1 ガイダンス 《到達目標》社会科教員としての自覚について説明できる。</p> <p>2 学習指導要領とは何か 《到達目標》学習指導要領について説明できる。</p> <p>3 学習指導要領地理的分野 《到達目標》中学校地理的分野の目標・内容と内容の取扱いについて説明できる。</p> <p>4 学習指導用柳雄歴史的分野 《到達目標》中学校歴史的分野の目標・内容と内容の取扱いについて説明できる。</p> <p>5 中学校歴史の授業づくり ステップ1（「課題」の設定と教材理解） 《到達目標》業の課題設定と教材研究の必要性について、具体的に説明できる。</p> <p>6 中学校歴史の授業づくり ステップ2（展開を考える） 《到達目標》「くらげチャート」の有効な活用方法を説明できる。</p> <p>7 中学校歴史の授業づくり ステップ2（展開を考える） 《到達目標》「Xチャート」の有効な活用方法を説明できる。</p> <p>8 中学校歴史の授業づくり ステップ2（展開を考える） 《到達目標》「ピラミッドストラクチャー」の有効な活用方法を説明できる。</p> <p>9 中学校歴史の授業づくり ステップ2（展開を考える） 《到達目標》「ウェビング」の有効な活用方法を説明できる。</p> <p>10 フィールドワーク2 現地調査 《到達目標》フィールドワークを実践し地域の課題を発見することができる。</p> <p>11 中学校地理の授業づくり ステップ1（「課題」の設定と教材理解） 《到達目標》授業の課題設定と教材研究の必要性について、具体的に説明できる。</p> <p>12 中学校地理の授業づくり ステップ1（「課題」の設定と教材理解） 《到達目標》授業の課題設定と教材研究の必要性について、具体的に説明できる。</p> <p>13 中学校地理の授業づくり ステップ3（「まとめ」と学習評価） 《到達目標》授業のまとめと学習評価について、具体的に説明できる。</p> <p>14 中学校地理の授業づくり ステップ3（「まとめ」と学習評価） 《到達目標》授業のまとめと学習評価について、具体的に説明できる。</p> <p>15 まとめ 《到達目標》学習指導案の必要性について説明できる。</p> <p>16</p> <p>17</p> <p>18</p>
授業のねらい及び概要	この授業では、中学校社会科および高等学校地歴科の教員を目指す学生を対象に、この教科における教育目標、本学が育成する教員に求められる資質・能力、学習指導要領に示された学習内容とその背景となる学問領域への理解、さまざまな学習指導理論を学ぶことを目的としている。そこでこの授業では、中学校・高等学校に勤務してきた実務家教員が、長年の実務の経験を生かした授業を行う。 グループワーク（第5～13回）、プレゼンテーション（第5～13回）。
到達目標	<p>到達目標1 学習指導要領に示された中学校社会科、高等学校公民科の目標及び内容を説明できる。</p> <p>到達目標2 社会科教員として必要な基礎的知識・技能について説明できる。</p> <p>到達目標3 1単元の授業を構想できる。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p>

	到達目標7 到達目標8
事前・事後学修	事前学修として、シラバスを参考に学習指導要領、教科書をもとに予習を90分程度行うこと。 事後学修として、配布した資料の理解を深めるための復習を90分程度行うこと。
評価方法	期末試験50点、平常点（指導案、指導計画、グループ活動、プレゼンテーション）50点とし、60点以上を合格とする。試験の答案は添削したうえで返却する。
履修上の留意点	自分が本当に教員を志望しているのか、見つめなおしてから履修してください。教員になるという強い意志がない学生は履修しないこと。
テキスト	『中学校学習指導要領解説社会編ISBN978-4-491-03471-3』、中学校社会科用文部科学省指定教科書『新しい社会 地理』（東京書籍ISBN不明）、同『新しい社会 歴史』（東京書籍ISBN不明）。 その他毎回の授業時に資料を配布する。
参考文献	『中学校・高等学校学習指導要領解説総則編』
教員e-mailアドレス	kaminoru@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	月曜日2限

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
上白石 実			
文学部DP(1)に関連	教職科目—中高	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	中学校社会科、高等学校地理歴史科教員として必要な実践力を身につける		
授業計画	1	ガイダンス 《到達目標》班編成や報告順を決める作業を通じ学級開きについて理解し実践できる。	
	2	ICT機器の体験 デジタル教科書と電子黒板を体験する。 《到達目標》社会科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。	
	3	ICT機器の体験 ICT機器を利用した授業を構想する。 《到達目標》社会科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。	
	4	模擬授業の実施 毎回2名が20分の模擬授業を実践し、検討を行う。 《到達目標》模擬授業の実施とその振り返りを通じて、授業設計の重要性を理解し、学習指導案を作成することができ、授業改善の視点を身に付けている。	
	5	授業の実践演習 毎回2名が20分の模擬授業を実践し、検討を行う。 《到達目標》模擬授業の実施とその振り返りを通じて、授業設計の重要性を理解し、学習指導案を作成することができ、授業改善の視点を身に付けている。	
	6	授業の実践演習 毎回2名が20分の模擬授業を実践し、検討を行う。 《到達目標》模擬授業の実施とその振り返りを通じて、授業設計の重要性を理解し、学習指導案を作成することができ、授業改善の視点を身に付けている。	
	7	授業の実践演習 毎回2名が20分の模擬授業を実践し、検討を行う。 《到達目標》模擬授業の実施とその振り返りを通じて、授業設計の重要性を理解し、学習指導案を作成することができ、授業改善の視点を身に付けている。	
	8	授業の実践演習 毎回2名が20分の模擬授業を実践し、検討を行う。 《到達目標》模擬授業の実施とその振り返りを通じて、授業設計の重要性を理解し、学習指導案を作成することができ、授業改善の視点を身に付けている。	
	9	授業の実践演習 毎回2名が20分の模擬授業を実践し、検討を行う。 《到達目標》模擬授業の実施とその振り返りを通じて、授業設計の重要性を理解し、学習指導案を作成することができ、授業改善の視点を身に付けている。	
	10	授業の実践演習 毎回2名が20分の模擬授業を実践し、検討を行う。 《到達目標》模擬授業の実施とその振り返りを通じて、授業設計の重要性を理解し、学習指導案を作成することができ、授業改善の視点を身に付けている。	
	11	授業の実践演習 毎回2名が20分の模擬授業を実践し、検討を行う。 《到達目標》模擬授業の実施とその振り返りを通じて、授業設計の重要性を理解し、学習指導案を作成することができ、授業改善の視点を身に付けている。	
	12	授業の実践演習 毎回2名が20分の模擬授業を実践し、検討を行う。 《到達目標》模擬授業の実施とその振り返りを通じて、授業設計の重要性を理解し、学習指導案を作成することができ、授業改善の視点を身に付けている。	
	13	授業の実践演習 毎回2名が20分の模擬授業を実践し、検討を行う。 《到達目標》模擬授業の実施とその振り返りを通じて、授業設計の重要性を理解し、学習指導案を作成することができ、授業改善の視点を身に付けている。	
	14	授業の実践演習 毎回2名が20分の模擬授業を実践し、検討を行う。 《到達目標》模擬授業の実施とその振り返りを通じて、授業設計の重要性を理解し、学習指導案を作成することができ、授業改善の視点を身に付けている。	
	15	授業の実践演習 毎回2名が20分の模擬授業を実践し、検討を行う。 《到達目標》模擬授業の実施とその振り返りを通じて、授業設計の重要性を理解し、学習指導案を作成することができ、授業改善の視点を身に付けている。	
	16	授業の実践演習 毎回2名が20分の模擬授業を実践し、検討を行う。 《到達目標》模擬授業の実施とその振り返りを通じて、授業設計の重要性を理解し、学習指導案を作成することができ、授業改善の視点を身に付けている。	

	17 18
授業のねらい及び概要	この授業では、中学校社会科および高等学校地歴科の教員を目指す学生を対象に、さまざまな学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。具体的には、事前に決めた単元について指導案を作成し、20分ほどの模擬授業を行う。その後、生徒役の学生たちはグループディスカッション、全体でのディスカッションを行い、感想を授業者に提出する。これらの作業をすることで、授業者が課題を発見するだけでなく、参加者全員が授業に必要な板書計画や教材理解・教材研究の実践方法、ディスカッションの重要性を学ぶ。そこでこの授業では、中高一貫校で社会科・地歴科・公民科の講師として勤務してきた実務家教員が、長年の実務の経験を生かした授業を行う。 模擬授業・グループワーク（第4 15回）。 情報リテラシー教育・ICTを活用した双方向型授業（第2,3回）。
到達目標	到達目標1 基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。 到達目標2 中学校社会科・高等学校地歴科教員として必要な知識・技能について説明できる。 到達目標3 1単元の授業を実践できる。 到達目標4 到達目標5 到達目標6 到達目標7 到達目標8
事前・事後学修	事前学修として、授業者は120分以上かけて各自授業テーマを決め指導計画を作成し模擬授業を行い、生徒役学生は授業のテーマにそって予習を90分以上行うこと。事後学修として、授業者は90分以上かけて模擬授業後の教員の指導や生徒役学生の感想から課題を発見しレポートとして提出し、生徒役学生は授業の振り返りを90分以上行うこと。 授業者は、指導案と授業で使う教科書・副教材を印刷して配布すること。
評価方法	模擬授業50点（計画案、レポート、討論への参加状況）、期末試験50点とし、60点以上を合格とする。毎回出席を取る。 レポートは添削したうえで返却する。
履修上の留意点	社会科の教員になるという強い意志を持って授業に臨むこと。
テキスト	『中学校学習指導要領社会科編ISBN978-4-491-03471-3』、『高等学校学習指導要領地理歴史編ISBN978-4-491-03641-0』、『新しい社会 地理』（東京書籍ISBN不明）、『新しい社会 歴史』（東京書籍ISBN不明）
参考文献	授業者が配布する指導案や資料。
教員e-mailアドレス	kaminoru@morioka-u. ac. jp
オフィスアワー	月曜日2限

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
山口 亮介			
児教DP（1）に関連	児-専門-学校教育系-100	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	教員の職務や役割及び使命感
授業計画	<p>1 オリエンテーション、「教師論」 履修上の留意点、評価方法など 教師とは</p> <p>2 「アンケート結果と教職論」 理想の教師像とは何か、教職の魅力、教職員の仕事 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>3 「教職の役割と適格性について」 教師の意義、教師に求められる役割 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>4 「教師の仕事の特質と内容」 教師の一日、一年間の仕事内容と学校運営組織 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>5 「学習指導要領と教育課程について」 学習指導要領と教育課程編成及びその内容 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>6 「学習指導の考え方と方法」 具体的な学習指導について（指導案から学ぶ） 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>7 「授業技術の習得について」 授業の具体的展開を通して授業技術の考察 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>8 「学級経営」 学級経営の意義と内容 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>9 「生徒指導の意義と原理」 生徒指導の意義、生徒指導提要の活用 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>10 「生徒指導上の課題について」 いじめ、不登校などの対応 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>11 「研修と教師の成長」 研修の意義や法的位置づけと職能の成長 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>12 「教育公務員の服務」 教員の服務に関する法的規定 服務上の義務、身分上の義務 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>13 「複式学級の指導」「義務教育学校」 複式教育の実際 「わたり」と「ずらし」 義務教育学校 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>14 「学校の連携」 地域、保護者、関係各機関との連携 チーム学校とは 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>15 「教職への道」</p>

	教職入門の学修の振り返り 優れた教師とは
授業のねらい及び概要	<p>「教職入門」は、平成9年7月教育職員養成審議会答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」及び平成10年6月改正教育職員免許法により設定された教職課程必修科目です。</p> <p>この授業では、教員の職務や役割、教員に求められる資質能力、大学の教職課程において学ぶべきことなど、教員にかかわる全般的な基本認識の形成をねらいとしている。</p> <p>日々成長続ける子どもと共に、学ぶ喜びを味わっていくため、教師のあるべき姿や子どもとのかかわり方について、先輩教師の身近で具体的な実践例なども参考にしながら考え、基本的な教育観や授業観などを深める。</p> <p>また、授業づくりの基礎・基本については、理論から実践への流れを具体的に学ぶことにより、夢の実現に向け大学生活が一層充実することを望んでいる。</p> <p>そこで、この授業では、22年間小学校教員として携わってきた様々な実務経験に基づき、毎時間の講義内で具体的な事例の解説を行いながら講義を行う。</p> <p>グループワーク【第2回～第14回】</p>
到達目標	<p>到達目標1 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解し、教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力について説明することができる。</p> <p>到達目標2 教員に科せられる服務上・身分上の義務について説明することができる。</p> <p>到達目標3 教員の職務の内容や役割、理想の教師像などについて、十分な理解の基に説明することができる。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>
事前・事後学修	<p>事前学修として、講義内で、次講義に向けての課題をだすので、調べておくこと。事前学修の内容について一人ずつグループ内で発表を行い、情報を共有した上で、講義を行う。（要する時間90分程度）</p> <p>事後学修として、講義内において疑問に思ったことや、より詳しく調べてみたいことについて、配付された資料や提示された参考文献などを基に、各自で学修を深めること。（要する時間90分程度）</p>
評価方法	<p>試験（70%）、受講態度（質問、意見、発表等 10%）、レポート（20%）</p> <p>提出を求めたレポートや課題に対しては、内容についてのコメントを添えたり講評を行ったりするなど、事前学修や事後学修に活用すること。</p>
履修上の留意点	レポートや課題についての教員からの講評をよく読むこと。
テキスト	テキストは、使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。
参考文献	<p>「生徒指導提要」文部科学省 著, ISBN4877302743</p> <p>「新しい時代の教職入門 改訂版」秋田喜代美・佐藤学 編著, ISBN4641220603</p>
教員e-mailアドレス	ryosuke@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	A校舎2階レッスン室5 研究室に掲示 質問は随時メールでも対応する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
大西 洋悦			
児教DP (3) に関連	児-専門-学校教育系-100	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	教員の職務や役割及び使命感
授業計画	<p>1 オリエンテーション、「教職論」 履修上の留意点、評価方法など 教員とは</p> <p>2 「アンケートの結果と教職論」 理想の教員とは何か、教員の魅力、教職員の仕事 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>3 「教員の役割と適格性について」 教員の意義、教員に求められる役割 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>4 「教員の仕事の特質と内容」 教員の1日、1年間の仕事内容と学校運営組織 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>5 「学習指導要領と教育課程について」 学習指導要領と教育課程編成及びその内容 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>6 「学習指導の考え方とその方法」 具体的な学習指導について（指導案から学ぶ） 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>7 「授業技術の習得について」 授業の具体的展開を通して授業技術の考察 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>8 「学級経営」 学級経営の意義と内容 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>9 「生徒指導の意義と原理」 生徒指導の意義、生徒指導提要の活用 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>10 「生徒指導上の課題について」 いじめ、不登校などの対応 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>11 「研修と教員としての成長」 研修の意義や法的位置付けと職能の成長 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>12 「教育公務員の服務」 教員の服務に関する法的規定 服務上の義務、身分上の義務 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>13 「複式学級の指導」「義務教育学校」 複式教育の実際 「わたり」と「ずらし」 義務教育学校 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p> <p>14 「学校の連携」 地域、保護者、関係各機関との連携 チーム学校とは 前回提示したテーマについての予習内容をグループ内に紹介する。その後、必要に応じて今回のテーマについてグループ内ディスカッションを行い、理解を深める。</p>

	15 「教職への道」 教職入門の学修の振り返り 優れた教員とは
授業のねらい及び概要	<p>「教職入門」は、平成9年7月教育職員養成審議会答申「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」及び平成10年6月改正教育職員免許法により設定された教職課程必修科目である。</p> <p>この授業では、教員の職務や役割、教員に求められる資質能力、大学の教職課程において学ぶべきことなど、教員にかかわる全般的な基本認識の形成をねらいとしている。</p> <p>日々成長し続ける子どもと共に、学ぶ喜びを味わっていくため、教員のあるべき姿や子どものかかわり方について、先輩教員の身近で具体的な実践例なども参考にしながら考え、基本的な教育観や授業観などを深める。</p> <p>また、授業づくりの基礎・基本については、理論から実践への流れを具体的に学ぶことにより、夢への実現に向け大学生活が一層充実することを望んでいる。</p> <p>そこで、授業を進めるにあたっては、授業の中で学生同士でのグループワークを取り入れるとともに、38年間小学校教員として携わってきた様々な実務経験に基づき、毎時間の講義内で具体的な事例の解説も随時取り入れながら進めていく。</p> <p>グループワーク [第2回～第14回]</p>
到達目標	<p>到達目標1 1 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解し、教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められている役割や資質能力について説明することができる。</p> <p>到達目標2 2 教員に課せられる服務上・身分上の義務について説明することができる。</p> <p>到達目標3 3 教員の職務の内容や役割、理想の教師像などについて、十分な理解の基に説明することができる。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>
事前・事後学修	<p>事前学修として、講義内で、次講義に向けての課題を出すので調べておくこと。事前学修の内容について一人ずつグループ内で発表を行い、情報を共有した上で講義を行う。(要する時間90分程度)</p> <p>事後学修として、講義内において疑問に思ったことや、より詳しく調べてみたいことについて、配布された資料や提示された参考文献などを基に、各自で学修を深めること。(要する時間90分程度)</p>
評価方法	<p>試験(70%)、受講態度(出席、発表等 10%)、レポート(20%)</p> <p>提出を求めたレポートや課題に対しては、講評の形でフィードバックするので、事前学修や事後学修に活用すること。</p>
履修上の留意点	<p>(1) 次時の予定を確かめて、本時の授業に臨むようにすること。</p> <p>(2) 授業中は、説明をよく聴き、ノートにメモをするなど、幅広い知識の獲得に努めるとともに、演習などの時は積極的に参加すること。</p> <p>(3) 授業の内容は、期末試験や教員採用試験などにも出題されるため、復習をしたり、疑問なことを調べたり、聞いたりして、十分な理解に努めること。</p>
テキスト	<p>テキストは、使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。</p>
参考文献	<p>「生徒指導提要」文部科学省 著, ISBN4877302743</p> <p>「成長する教師—教師学への誘い」浅田 匡, 藤岡 完治, 生田 孝至 編著, ISBN4760825754</p> <p>「新しい時代の教職入門 改訂版」秋田喜代美・佐藤 学 編著, ISBN4641220603</p>
教員e-mailアドレス	onishi@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室(LA102)の前に掲示している。

講義科目名称： 教育相談

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
3年後期	3年	2	選択
担当教員			
春日 菜穂美			
児教DP(3)(4)に関連	児－専門－心理－200	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	教育相談の基礎的な理論と方法を学ぶ
授業計画	<p>1 教育相談の基本</p> <p>2 児童期・幼児期の発達とアセスメント</p> <p>3 児童期・幼児期の問題①：いじめ</p> <p>4 児童期・幼児期の問題②：虐待</p> <p>5 児童期・幼児期の問題③：不登校・発達障がい</p> <p>6 カウンセリングの理論と方法</p> <p>7 カウンセリング演習</p> <p>8 保護者対応①：アサーティブな対応</p> <p>9 保護者対応②：クレーム対応</p> <p>10 児童・幼児対応</p> <p>11 ソーシャルスキルトレーニング①：発表準備</p> <p>12 ソーシャルスキルトレーニング②：発表</p> <p>13 ストレスマネジメント①：認知へのアプローチ</p> <p>14 ストレスマネジメント②：身体・感情へのアプローチ</p> <p>15 教育相談の展開・レポート発表</p>
授業のねらい及び概要	<p>教育相談では、教育相談の特性や児童・幼児の発達を理解し、教育的な課題や問題の状況を適切にとらえて支援していくことが必要である。そこで、以下をねらいとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の特性と組織的な対応や連携の必要性を学ぶ。 ・児童・幼児の発達に応じたアセスメント、問題（不登校・いじめ・虐待・発達障がいなど）の理解と教育相談の進め方を学ぶ。 ・児童・幼児や保護者に対する教育相談（問題解決的・予防的・開発的）の方法を学ぶ。具体的には、カウンセリング、アサーティブな対応、ソーシャルスキルトレーニング、ストレスマネジメントを取り上げる。 <p>教育相談を実施するためには、知識の修得に加え、実践的な方法を身につけることが必要である。そこで、本授業では理論学習に加え、スクールカウンセラー、教育センター教育相談員などの臨床経験に基づいた実践的な体験学習を行う。体験学習の形態としては、グループワーク、ロールプレイ、プレゼンテーション（模擬ソーシャルスキルトレーニング発表）、タブレット端末を活用した双方向授業などを用いる。</p>
到達目標	<p>到達目標1 教育相談の意義、特質、留意点を理解し、説明できる。</p> <p>到達目標2 教育相談を進める際の基礎的な知識と方法を理解し、活用できる。</p> <p>到達目標3 教育相談（問題解決的・予防的・開発的）の具体的な方法を修得し、実施できる。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>

事前・事後学修	授業はほぼ毎回、パワーポイントを用いて解説し、資料を配布するとともに、ワークシートを用いた個別学習とグループ学習を行う。ワークシートについては、授業の事前に記載して授業に臨むことや授業後に学修したことの振り返りを行い補完することが必要である。これに加え、事前・事後学修として、資料の要約や調べ学習などの課題を課し、ICT（ロイロノートなど）を活用した提出を求め、授業冒頭に発表の機会をもつ。これらの事前・事後学習を毎回90分以上行うこと。また、成果を学期末レポートとしてまとめることを求めるので、自ら当該科目に関連する知識や技能について調べたり、実践したりしておくこと。
評価方法	平常点（体験学習への参加、ワークシートとロイロノートカードの提出と評価、グループ発表の評価）65%、学期末レポート35%。ワークシート、ロイロノートカード、学期末レポートは、グループ内や全体での発表を行い、講評する。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動などの体験学習を行うため、遅刻厳禁。 ・第1回目のオリエンテーションで、授業の進め方や注意事項について説明するので、必ず出席すること。 ・2/3以上の出席がない場合は、学期末レポートの評価対象とはならない。就職活動による欠席は公欠ではないことに留意すること。
テキスト	使用しない。
参考文献	向後礼子・山本智子「ロールプレイで学ぶ教育相談ワークブック」ISBN:9784626070558（盛岡大学図書館所蔵） 桜井美加・齋藤ユリ・森平直子「教育相談ワークブック」ISBN:9784779304811（盛岡大学図書館所蔵） 大前玲子（編著）「体験型ワークで学ぶ教育相談」ISBN:9784972594249（盛岡大学図書館所蔵） 西美奈子（編著）「子どもとかかわる人のためのカウンセリング入門」ISBN:9784893471505
教員e-mailアドレス	kasuga@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	A校舎3階相談室（研究室） ※時間については研究室前に掲示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
長田 洋一			
児教DP(3)に関連	児一専門ー基礎教育系	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	発達障害児を支援する特別支援教育に関して総合的に理解する。		
授業計画	1	ガイダンス（講義の内容、授業の進め方）	発達障害(LD, ADHD, ASD)の概要
	2	自閉症スペクトラム(ASD)1：3人の偉大な発見者 レオ・カナー、ハンス・アスペルガー、ローナ・ウィングの功績について	
	3	自閉症スペクトラム(ASD)2：4つの特徴 ①対人関係の障害、②コミュニケーションの障害、③こだわり、④想像力の障害	
	4	自閉症スペクトラム(ASD)3：基本的な対応のしかた ①共感性を育てる、②やりとりを促す、③見通しを持たせる	
	5	自閉症スペクトラム(ASD)4：専門的な指導法 TEACCH(Treatment and Education of Autistic and related Communication Handicapped Children)の理念	
	6	自閉症スペクトラム(ASD)5：心理劇の適用 心理劇的アプローチ(童話を用いた心理劇)の紹介	
	7	自閉症スペクトラム(ASD)6：心理劇の実践 心理劇的アプローチを実際に体験し(実習)、感想を述べあう(ディスカッション)	
	8	てんかん：自閉症の関連症状 てんかんの症状と発作が起きた時の対処法	
	9	学習障害(LD)1：6つの困難さの特徴 「読む、書く、聞く、話す、計算する、推論する」ことの中に困難さがある。	
	10	学習障害(LD)2：事例の紹介 授業者が関わった事例を紹介する。	
	11	学習障害(LD)3：実践研究の紹介 授業者が行った授業実践を紹介する。	
	12	注意欠如多動症(ADHD)1：3つの困難さの特徴 不注意、多動、衝動性が目立つ行動障害	
	13	注意欠如多動症(ADHD)2：長所を発見する 短所にはなるべく目をつぶり、長所を見つけて褒めるようにする。	
	14	注意欠如多動症(ADHD)3：問題行動の軽減に向けて ソーシャルスキルトレーニング(SST)を実施する(実習)	
	15	発達障害児への支援：特別支援教育の現状と課題について 通常の学級、特別支援学級、通級指導教室が発達障害児に果たすべき役割	
授業のねらい及び概要	<p>発達障害とその近隣に位置する障害を取り上げる。自閉症スペクトラム(ASD)、学習障害(LD)、注意欠如多動性障害(ADHD)を中心に、知的障害、ダウン症、てんかん等について講義をする。それぞれの障害の概要を理解した上で、障害のために学習面や生活面でどのような困難に直面するか考える。また、その困難さを軽減するために、どのような支援を提供するとよいか考える。小学校に30年以上勤務し、そこで様々な障害を持った児童への指導に携わってきた授業者の実務経験に基づき、毎回、具体的な事例を紹介する。なお、ASD児やADHD児のように対人関係に問題を持つ児童へのアプローチとして心理劇を紹介し、実際に体験する機会を設ける。</p> <p>・実習[第7・14回] ディスカッション[第7回]</p>		
到達目標	到達目標1	LD, ADHD, ASD等の発達障害に関して、それぞれの障害の特徴や支援の方法について説明できる。	
	到達目標2	発達障害に近隣に位置する障害(てんかん等)のある児童について概要を説明できる。	
	到達目標3	対人関係に問題を持つASD児へのアプローチの方法について論じることができる。	
	到達目標4		
	到達目標5		
	到達目標6		
	到達目標7		
	到達目標8		

事前・事後学修	事前学修として、シラバスを参照の上、次回の授業で取り上げる特別支援教育に関する内容について関心を持ち、関連の参考図書を読んでおくことよい（要する時間45分程度）。 授業を受けての事後学修として、授業中に配布した資料を再度見直し、できたらその関連の文献を検索し、さらに知識や理解を深めていくことよい（要する時間45分程度）。
評価方法	講義内容に関するレポート課題40%、授業への参加状況30%、受講態度と発表意欲30% 提出を求めたレポート課題に対しては、講評の形でフィードバックするので、事前学習や事後学習に活用すること。
履修上の留意点	授業は、資料を配布し、パワーポイントを用いて解説していきます。通級指導教室に関する内容はテキストを用いて説明していきます。また、授業内容について受講生同士による情報交換や意見交換の場を多く取り入れていくので、積極的な発言を望みます。さらに、授業内容に関する小レポートを授業時間内に課すこともあります。
テキスト	心理劇的アプローチと小学校の通級指導教室 都築繁幸・長田洋一著 ジアース教育新社 2,200円 ISBN978-4-86371-000-0 (生協書籍コーナーで販売)
参考文献	「障害者支援制度の経緯および取り組みの実際と合理的配慮:障害学生支援の充実に向けて」都築繁幸(著) 22世紀アート Kindle版 1342円 (後日、生協で販売)
教員e-mailアドレス	osada@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	木曜日10:25~11:55, 12:50~14:20 (LA315) 質問は随時メールでも対応する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
佐藤 康司			
児教DP(3)に関連	児-専門-心理系-100	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	教育・発達・学習・評価などについての「思い込み」を検討する
授業計画	<p>1 ガイダンス（講義のねらい、進め方などについて）心理学・教育心理学の目的</p> <p>2 発達と教育1 生得論と習得論、ピアジェの発達段階論①（感覚運動期—前操作期）</p> <p>3 発達と教育2 ピアジェの発達段階論②（具体的操作期—形式的操作期）</p> <p>4 発達と教育3 ピアジェ理論に対する批判</p> <p>5 発達と教育4 発達と教育との関係（ヴィゴツキーの最近接領域論）</p> <p>6 学習1 学習とは／知識の分類</p> <p>7 学習2 日常の学習のタイプ（生産的学習と再生的学習）</p> <p>8 学習3 生産的学習の有効性について／例外の役割</p> <p>9 学習4 学習者の学習観と誤ルール</p> <p>10 教育評価1 従来の評価観（評定主義と事後主義）</p> <p>11 教育評価2 評価は常に自己評価</p> <p>12 教育評価3 評価を授業づくりに役立てるには？（評価活動のPDCAサイクル）</p> <p>13 楽しい授業の創造1 2種類の「おもしろさ」</p> <p>14 楽しい授業の創造2 知識と興味・関心・意欲との関係</p> <p>15 楽しい授業の創造3 アクティブラーニングなど、近年の教育の動向 試験</p>
授業のねらい及び概要	<p>この講義では、私たちが教育や発達などについて持ちがちな様々な「思い込み」を検討します。例えば、次のような考えに皆さんは賛成でしょうか？試みに答えてみてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「教師は、子どもの人格形成に責任を持っている」 2. 「教育は子どもの発達段階に応じて行なわなければならない」 3. 「教育する前には、子どもの頭の中は白紙の状態である」 4. 「学習においてはたくさんの知識を暗記することが大切である」 5. 「教師が行なう評価とは、生徒に点をつけることである」 <p>上に示したものは、教育観や発達観、学習観や評価観など、さまざまな「思い込み」の例といえます。授業計画に示す内容の中で、こうした「思い込み」のいくつかを取り上げ私なりの回答を提案します。皆さんも、実例や反証例を探して根拠を確認しながら、自分なりの解答を持ってほしいと思います。なお取り上げる事例には、特に発達や学習のテーマで、幼児や障がいのある子に関するものが含まれます。</p> <p>また、本授業では、小学校教員の経験にもとづき、実践的な事例も豊富に取り上げます。</p>
到達目標	<p>到達目標1 (1) ピアジェの発達段階論の内容とそれに対する批判を具体例とともに説明できる。</p> <p>到達目標2 (2) 自己の学習観・知識観を点検しながら、生産的な学習の利点を具体例とともに説明できる。</p> <p>到達目標3 (3) 自己評価と他者評定の違いを正しく理解し、自己評価活動を適切に例示できる。</p> <p>到達目標4 (4) 学習における「楽しさ」の意味を理解し、楽しさを喚起する具体策を挙げることができる。</p>

	到達目標5 到達目標6 到達目標7 到達目標8
事前・事後学修	予習は特に必要ない。復習を丁寧にし授業内容を振り返るとともに疑問点等を次回までに明確にすること(90分)。 次の回には、直接質問する、あるいは、リアクションペーパーに記入するなど、疑問点の解決に努めること。 各テーマの終わりに復習のための課題を提示する。
評価方法	(1) 受講の状況(リアクションペーパー・課題の提出(0回は不可)及び内容):30% (2) 定期試験の結果:70% リアクションペーパーに書かれた疑問点等については、次の回にコメントする。 提出された課題は、採点后返却し、解答例にもとづき解説する。
履修上の留意点	次のいずれかの場合、「不可」となるので、注意してください。 (1) 課題の提出が一度もない場合 (2) 独力での課題作成と認めがたいケースが一度でもある場合 (3) やむを得ない理由によらない欠席が授業回数の3分の1を超える場合
テキスト	指定しない。
参考文献	宇野忍(編)『授業に学び授業を創る教育心理学』中央法規 ¥2,500 その他は授業内で紹介します。
教員e-mailアドレス	ksato@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室(LA307)ドアに掲示する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
笹平真之介			
児教DP(3)に関連	児－基礎－学校教育系－100	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	■教科及び教科の指導法に関する科目 ○各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） 国語科教育の概要、小学校学習指導要領の理解、授業構想と評価を学習する。		
授業計画	1	国語科からみた小学校学習指導要領の構造	
	2	国語科におけるねらい・目標、学習活動、評価の一貫性	
	3	教材研究の方法と実践、教具の活用	
	4	学習計画のしかた（国語科単元学習の特性）	
	5	国語科の学習活動の特性、先行研究・実践の分析視点	
	6	学習計画の実践	
	7	読むこと領域の学習内容と課題（文学的文章）	
	8	読むこと領域の学習内容と課題（説明的文章）	
	9	話すこと・聞くこと領域の学習内容と課題	
	10	書くこと領域の学習内容と課題	
	11	学習指導案と授業の実践	
	12	日本語の文字・書写	
	13	日本語学の知識	
	14	国語(科)とは何か?	
	15	近代におけることばの教育の歴史／ふりかえり	
授業のねらい及び概要	<p>授業のねらい及び概要</p> <p>「話せばことばは教えられる」だろうか。もちろんこれは誤解である。学校で教えるには、最低限の基準である学習指導要領が、子どもにつけさせることばの力をどのように分類しているか／きたかを理解したうえで、具体的な子どもの姿を考えてつけさせたい力を設定し、学習活動を支援し・評価し・次の学びへと導く技術が必要だ。本講義では、これらを具体化するツールとして学習指導案に焦点をあて、その基本的な形式を受講者どうしの協働で作成できるようにするを通して、下記の到達目標をめざす。ひいては今後の実習や実践を通して授業を改善していく視点の萌芽としたい。また、書字や発話などの授業技術もあつかう。</p> <p>対話・討論型授業 [第3, 11, 14, 15回] ICTの活用 [第15回]</p> <p>教員の実務経験：小学校教員(学級担任)の経歴</p> <p>※計画の数字は実施の順序ではありません。受講者の状況により適宜順序を構成し、その都度通知します。</p>		
到達目標	到達目標1	学習指導要領のねらいから学習活動、そして評価まで一貫した学習（単元）計画を作ることができる。	
	到達目標2	国語科学習指導要領の構造と内容を理解し、説明することができる。	
	到達目標3	国語科の学習活動の特性を理解し、説明することができる。	
	到達目標4	国語科の学習評価の特性を理解し、説明することができる。	
	到達目標5	手による書字の特徴を理解し、説明することができる。	
	到達目標6	先行する研究・実践を、研究倫理に基づいて活用することができる。	
	到達目標7		

	到達目標8
事前・事後学修	<p>(1) 毎回のつながりを意識し、前時の配付資料を読み、内容の理解を深める。</p> <p>(2) 課外学修として教材研究・単元計画作成等の課題に取り組む。</p> <p>(3) 書字を整える練習をする。</p> <p>※事前・事後ともに90分とするが、あくまで目安である。時間にとらわれず、探求するところはさらにしてほしい。</p>
評価方法	<p>学習指導案およびその作成から修正への過程(40)、協働への寄与(20)、講義のふりかえり(20)、知識の定着度合い；小テスト(20)を総合する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案の評価基準(到達基準を含む)は、作成開始前に別途提示する。 ・内容の疑問には適宜フィードバックする。直接の質問のほか、Teamsのチャットも利用して欲しい。 ・指導案は、最終回の終了後、到達度の評価を含めて返却する。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義は、教員同士の学び合いによる指導案作成の能力の育成を目指すものであって、担当者による指導案の添削個別指導講座ではないことを理解して受講してほしい。 ・本講義の目標は、あくまで基本的な指導案作成の能力の育成である。十分に指導案を作る能力は本講義後の問題であり、実習を経て、さらに教員になってからも鍛え続けるものと理解してほしい。 ・Microsoft Teamsを使用する。アプリを手持ちの機器にインストールすること、また基本的な使い方に習熟しておくことを求める。 ・講義中にもTeamsを活用する(資料配布、グループの話し合いの記録等)。教室でも使用できるようにすること。 ・通信環境の整備を求める。受講者の責任に帰さない場合を除く、通信の不具合によるしめきり遅れ等には基本的に対応しないこととする。(信頼できる環境を選ぶ、早めに提出するなど最善策を講ずること)
テキスト	<p>下記の①②どちらも購入すること。大学生協に発注済。</p> <p>① 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編 平成29年7月、文部科学省、東洋館出版社(ISBN:978-4491034621)</p> <p>② こくご二下(赤とんぼ)、令和2年度版、光村図書(ISBN:978-4813800675)</p>
参考文献	適宜、講義内で紹介する。
教員e-mailアドレス	Teamsのチャットで連絡してください。
オフィスアワー	Teamsで公開します。

講義科目名称： 初等社会科教育法

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
大西 洋悦			
児教DP (3) に関連	児-専門-学校教育系-100	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	小学校社会科の目標と内容、授業の在り方
授業計画	<p>1 オリエンテーション 履修上の注意点について 小学校社会科教育の意義</p> <p>2 小学校社会科教育の歴史 小学校社会科の誕生から現在までの変遷</p> <p>3 小学校社会科の改訂と内容 学習指導要領の解説 ・社会科改訂の趣旨及び要点 ・社会科の内容構成</p> <p>4 小学校社会科の授業づくりの方法と技術 (1) 小学校社会科授業の実際</p> <p>5 小学校社会科の授業づくりの方法と技術 (2) 授業づくりの要素とプロセス ・教材分析、単元指導計画</p> <p>6 小学校社会科の授業づくりの方法と技術 (3) 素材の教材化 教材の開発と工夫</p> <p>7 小学校社会科の授業づくりの方法と技術 (4) 社会科における効果的な資料作成 ・資料の収集及び選択</p> <p>8 小学校社会科の授業づくりの方法と技術 (5) 問題解決的な学習など多様な指導方法 I C T及び情報機器を活用した学習指導</p> <p>9 小学校社会科の授業づくりの方法と技術 (6) 評価方法 評価の観点と評価規準</p> <p>10 小学校社会科の学習指導 (1) 実践事例の分析 (中学年)</p> <p>11 小学校社会科の学習指導 (2) 実践事例の分析 (高学年)</p> <p>12 小学校社会科の学習指導 (3) 小学校教員による授業実践講話</p> <p>13 小学校社会科の学習指導案 (1) 学習指導案の作成</p> <p>14 小学校社会科の学習指導案 (2) 学習指導案の作成</p> <p>15 小学校社会科における授業改善 学習指導案の分析・交流 小学校社会科における授業改善のポイント</p>
授業のねらい及び概要	<p>小学校社会科の目標と内容が、どのように構成されているかや、児童が社会的事象に関心をもって、主体的に問題を解決していこうとする態度や問題解決能力、思考力・判断力・表現力などの能力を育成するための学習指導案の作成、問題解決的な学習、I C T活用及び多様な教材を活用した効果的な指導方法等について学ぶ。</p> <p>本授業を進める際には、対話・議論する場を設け、協議したり協働的に学んだりするとともに、38年間小学校教員として携わってきた実務経験の中で培った知識や経験を生かし、具体的な事例や実践例を提示したり、解説を取り入れながら授業を進める。また、優れた研究実践を行っている外部講師を招聘し、授業実践に学ぶ機会を設けることで実践的な指導力を身に付ける。 グループワーク、対話・議論型授業〔第4回、第10回、第11回、第15回〕</p>

到達目標	到達目標1 到達目標2 到達目標3 到達目標4 到達目標5 到達目標6 到達目標7 到達目標8	1 小学校社会科の変遷や学習指導要領に示された社会科の目標や内容を理解し、説明することができる。 2 小学校社会科の特性に応じた問題解決的な学習、ICT機器の活用、教材を活用した効果的な指導方法を理解し、具体的な授業設計に適用することができる。 3 小学校社会科の授業における基礎的な学習理論や学習指導案の構成を理解し、学習指導案を作成することができる。
事前・事後学修	事前学修として、学習内容に関係した資料を配布するので、事前によく読んだり、調べたりして臨むこと。 (要する時間90分程度) 事後学修として、本時で学習したことをプリントや資料を基に振り返り、理解に努めると共に、より詳しく調べてみるなど学修を深めること。(要する時間90分程度)	
評価方法	試験(80%)、受講態度(出席、発表等 10%)、レポート(10%) 提出を求めたレポートや課題に対しては、内容については、講評の形でフィードバックするので、事前学修や事後学修に活用すること。	
履修上の留意点	(1) 次時の予定を確かめて、本時の授業に臨むこと。 (2) 授業中は、説明をよく聴き、ノートにメモをするなど、幅広い知識の獲得に努めるとともに、演習などの時は積極的に参加すること。 (3) 「小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説社会科編」は、授業で使用したり、参考にしたりするので必ず持参すること。	
テキスト	文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年度告示)解説社会科編」ISBN4536590099	
参考文献	新版 新しい社会 5上(教育出版) 講義の中で適宜資料を配布する。	
教員e-mailアドレス	onishi@morioka-u.ac.jp	
オフィスアワー	研究室(LA102)の前に掲示している。	

講義科目名称： 初等体育科教育法

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
盛島 寛			
児教DP(3)に関連	児－専門－学校教育系－100	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	小学校体育科教育における教材構成
授業計画	<p>1 体育授業の基礎理論① オリエンテーション 体育概念の推移 目標論 「私の体育の歴史」を書く。</p> <p>2 体育授業の基礎理論② カリキュラム論、学習内容論、教材論</p> <p>3 体育授業の基礎理論③ 学習指導論、評価論</p> <p>4 よい体育授業の探究 ① 子どもから見たよい体育授業、よい体育授業の条件 「よい体育授業」について討論する。</p> <p>5 各領域の学習指導 ① 「体づくり運動系領域」</p> <p>6 各領域の学習指導 ② 「体づくり運動系領域」 模擬授業1 レポート「模擬授業指導案及び模擬授業振り返りレポート」 模擬授業を担当した翌週にレポートを提出する。</p> <p>7 各領域の学習指導 ③ 「器械運動系領域」、「陸上運動系領域」</p> <p>8 各領域の学習指導 ④ 「器械運動系領域」、「陸上運動系領域」 模擬授業2〔ICTを活用した双方向型授業〕 (器械運動系領域の模擬授業では、タブレット端末を活用し、技のできばえや課題等を受講者同士や受講者と担当教員が説明・補足・質問等を行いながら、よりよい学習指導ができるようにICTを活用した双方向型授業を行っていく。)</p> <p>9 各領域の学習指導⑤ 「水泳運動系領域」、「ボール運動系領域」</p> <p>10 各領域の学習指導⑥ 「ボール運動系領域」 模擬授業3</p> <p>11 各領域の学習指導⑦ 「表現運動系領域」、「保健領域」</p> <p>12 各領域の学習指導⑧ 「表現運動系領域」 模擬授業4〔ICTを活用した双方向型授業〕 (表現運動系領域の模擬授業では、タブレット端末を活用し、全体の動きや自分の動き等を見ながら、受講者同士や受講者と担当教員が説明・補足・質問等を行い、よりよい学習指導ができるようにICTを活用した双方向型授業を行っていく。)</p> <p>13 体育授業の展開例および授業研究の方法と成果</p> <p>14 体育授業の展開例および授業研究の方法と成果 模擬授業5 小学校体育の典型教材紹介</p> <p>15 年間指導計画の作成 第1・2学年 第3・4学年 第5・6学年 「2年間でバランスよく実施する年間指導計画」か又は「2学年をまとまりとして構成した年間指導計画」のどちらかを選択して、指定された学年の年間指導計画を作成する。</p> <p>16</p> <p>17</p> <p>18</p>
授業のねらい及び概要	<p>平成29年告示の学習指導要領では、生きる力の育成をより具体化し、育成を目指す資質・能力の明確化、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進が求められている。</p> <p>体育の授業においても、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の内容の一層の明確化を図ることが示されているが、ここでは新学習指導要領の考え方のもとで、どのような授業を構成し、展開すればよいのかについて、担当教員の小学校実務37年の経験を生かし、具体的な教材や児童のつまづき例をあげたり、学校現場の今日的課題等に触れたりしながら学修する。</p> <p>「体育授業の基礎理論」では、目標論、カリキュラム論、学習内容論、教材論、学習指導論、評価論などを課題解決型学修を取り入れながら能動的に学修を進める。</p> <p>「よい体育授業の探究」では、よい体育授業とは何かについてグループワークを取り入れて協議するとともに</p>

	<p>に、子どもから見たよい体育授業、よい体育授業の条件について解説する。 「各運動領域の学習指導」では、運動の特性と内容の取扱い、授業づくり、評価、授業を高める指導技術などを具体的に解説するとともに、模擬授業（ICTを活用した双方向型授業を含む）を行い、より実践的な能力を養う。 「体育授業の展開例」では、体育授業実践における典型的な実践記録を紹介し、「授業研究の方法と成果」では、優れた授業研究を取り上げ、どのような方法でどのような成果が生み出されたかを紹介するとともに、模擬授業を行い体育授業場面や教師の相互作用行動を観察・記録するなど授業観察の方法についても学修する。 第6回、第8回、第10回、第12回、第14回は、体育館での模擬授業を予定。</p>
到達目標	<p>到達目標1 よい体育授業について論じることができる。</p> <p>到達目標2 体育教材について深く理解すると共に、模擬授業づくりをすることができる。</p> <p>到達目標3 体育科の領域構成と内容について説明できると共に、年間指導計画を作成することができる。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>
事前・事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：今回の講義で扱う資料（事前に指定）を読み、その要点をまとめておく。 ・事後学修：今回の講義内容の要点をまとめる。 ※事前・事後の学修には、それぞれ最低90分を当てること。 ・学期末に提出する「年間指導計画書」を念頭において学修すること。 ・テキストとして『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編』『10分で運動能力を高める！体づくり運動ベスト100』を使用し、適宜プリントも配布する。
評価方法	<p>1. よい体育授業に関するレポート（30点）</p> <p>3. 模擬授業づくりに関するレポート（30点）</p> <p>4. 年間指導計画に関するレポート（40点）</p> <p>※計100点満点（60点以上合格）</p> <p>※提出されたレポートについては、講評として授業時にフィードバックするので、授業理解に活用すること。</p>
履修上の留意点	<p>テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編』『10分で運動能力を高める！体づくり運動ベスト100』を毎時持参すること。</p>
テキスト	<p>『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編』 文部科学省 東洋館出版社 ￥162</p> <p>『10分で運動能力を高める！体づくり運動ベスト100』 岩手体育学習会著 明治図書 ￥2,160</p>
参考文献	<p>『学校体育授業事典』 大修館書店</p> <p>『新版 体育科教育学入門』 大修館書店</p> <p>『初等体育授業づくり入門』 大修館書店</p> <p>『体育科教育学の現在』 創文企画</p> <p>『体育授業を観察評価する』 授業改善のためのオーセンティック・アセスメント 明和出版</p>
教員e-mailアドレス	<p>morishima164@mopera.net</p>
オフィスアワー	<p>授業終了直後、教室にて質問を受ける。また、メールにても質問等を受け付ける。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
石川 悟司			
児教DP(3)に関連	児-専門-保育・幼児教育系-100	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	幼児教育の方法についての基礎的理解
授業計画	<p>1 子どもは「育つ」のか「育てられる」のかについての議論（導入） 育てたい大人、育ちたい子ども、相反する両者の関係について自身の経験を踏まえ議論し講義の動機付けを行う。</p> <p>2 子どもの自発性について 短編小説「みのむし」輪読 「子どもの自発性について」 第1回議論に関連する短編小説の輪読をし、いくつかのキーワードを拾いながら更に議論を深め、「育ちたい子ども」（自発性）についての理解を深める。</p> <p>3 幼稚園教育の基本に据えられた「環境を通して行うこと」の意味についての解説 幼稚園教育要領第1章総則「環境を通すこと」の意味について 第1,2回の講義と連動させながら「幼児教育は幼児の自発性を生かす」という幼児教育の基本理念についての説明。</p> <p>4 子ども理解について（1-1） 記録ビデオ 5歳児積み木を視聴し、行動の観察記録</p> <p>5 子ども理解について（1-2） 4における観察記録を基にしたデータの分析（行動の意味把握）</p> <p>6 幼児教育の目標と教師の役割について 実践事例「5歳児 いも会議」（豊かな心を育む教師の役割）について</p> <p>7 幼稚園教育を小学校教育との比較を通して理解する。（ねらいの独自性を中心に） 6に関連する論文「5歳児における協同的学びと保育者の援助」 幼稚園教育の独自性について、教師が子どもに臨む育ちの視座（ねらい）と以降の小学校教育への連動性について。</p> <p>8 幼稚園教育要領（1-1） 3および7での学修内容を振り返りながら幼稚園教育要領の概観及び記述された内容の理解を深める。</p> <p>9 幼稚園教育要領（1-2）及び幼稚園教育の仕組み（教育年限、生活の流れを中心に） 幼稚園教育の内容・方法（ねらい・内容・育てたい資質能力、見方・考え方）等についての説明</p> <p>10 指導案作成 幼稚園教育の仕組み（教育年限、生活の流れを中心に） 指導案作成上の基礎知識 幼稚園教育の枠組み（設立主体、教育課程、教員数、職名、1日の流れ等）についての説明 指導案作成の種別、様式、作成上のルールについての解説</p> <p>11 指導案「幼児の実態」作成① 指導案「幼児の実態」の捉えが指導案作成の基礎になることについての説明 具体事例をインターネット等より収集</p> <p>12 指導案「幼児の実態」作成② 「幼児の実態」記入 エピソードの読み取り①</p> <p>13 指導案「幼児の実態」作成③ 「幼児の実態」記入 エピソードの読み取り②</p> <p>14 指導案「幼児の実態」作成④ エピソードから読み取った事例を視覚化しながら、その時期の幼児の育ちを具体的にイメージする。（マッピング作業）</p> <p>15 指導案記載事項「幼児の実態」の文章化 マッピングにより視覚化されたその時期の育ちの様子を文章化する。（レポート課題）</p> <p>16</p> <p>17</p> <p>18</p>
授業のねらい及び概要	<p>本授業では（保育）の（基礎）と（方法）に関する認識を深めることをねらいとする。幼稚園の実務に携わってきた経験をもとに、幼稚園教育要領の意味や、幼稚園教育における組織や実務・教育の方法等について、具体的に基づいた基礎的理論についての理解の定着を図る。それと並行して初学者としての学生自身の子どもに対する感覚（見え方・感じ方）のあり様について内省的考察を行い、自らが教育・保育に携わる意味の問い直しを行う。</p> <p>授業では多くの実践事例を提示し、事例毎に何を問題とすべきかという議論を通して「その時期の幼児の育ち」を把握する方法を学修する。後半はそれをもとにして指導案『幼児の実態』の記載方法に繋げた学修をす</p>

	る。 対話・議論型授業 [第1, 2, 3回] ICTを活用した双方向型授業 [第7, 9, 11回]
到達目標	到達目標1 幼稚園教育の役割と方法を理解するとともに、幼児理解の大切さを説明することができる。 到達目標2 幼稚園教育要領について理解し、その概観を説明することができる。 到達目標3 子どもの行動を観察し、心の動きや背景について理解し根拠に基づいた説明ができる。 到達目標4 1～3をもとにした指導案記入事項「幼児の実態」の記述ができる。 到達目標5 到達目標6 到達目標7 到達目標8
事前・事後学修	次のことを講義時間外学修の指針としてください。(要する時間各90分) 事前学修 各学年(年少から年長)までの子どもの遊び・生活の特徴について大まかにまとめておく。 事後学修 講義ごとに学習内容をノートに整理してまとめる。
評価方法	小レポート 20% 定期試験 80%による。 提出を求めた課題・レポートに対しては、講評の形でフィードバックするので、事前事後の学修に活用すること。
履修上の留意点	特にありません。
テキスト	幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル社 978-4-577-81447-5 251円 幼稚園教育要領 文部科学省 240円 みえるこえきこえるえがお かぐなみだ 山口北州 1800円
参考文献	「育ての心」(上) 倉橋惣三 フレーベル館 ISBN4-577-80048-9 830円
教員e-mailアドレス	ishikawa@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	A棟一階 LA101 研究室前に掲示します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
石川 悟司			
児教DP(3)に関連	児-専門-保育・幼児教育系-200	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	幼児理解の必要性と方法について。幼児の実態をもとにした指導計画の作成。
授業計画	<p>1 講義内容の説明、幼児教育法1の振り返り 幼児教育法1における既修事項の確認と、難解事項（Iの試験結果より）についての解説を行う。（フィードバック）</p> <p>2 事例研究① 遊びの中での育ちの読み取りを中心に、4歳9月の事例①研究を行います。読み取った内容を指導案記載事項「幼児の実態」につなげる方法を学修する。</p> <p>3 事例研究② 遊びの中での育ちの読み取りを中心に、4歳9月の事例②研究を行います。読み取った内容を指導案記載事項「幼児の実態」につなげる方法を学修する。</p> <p>4 4歳児9月の幼児の実態を考える。（マッピング） 講義2及び3にて学修した事柄を4歳児9月の幼児の実態としてマッピングし視覚的に捉え、文章化する。</p> <p>5 指導の「ねらい」の設定方法 4歳児9月「幼児の実態」から「ねらい」の導き方について①（提出課題）</p> <p>6 「内容」の設定方法 4歳児9月「幼児の実態」から「ねらい」の導き方について② 5にて提出された課題の添削と「内容」の設定方法、活動テーマ「ばななおに」の説明 活動予想フローをもとにした「展開」についてのフリー記述（課題提出）</p> <p>7 「展開」の記述方法について フリー記述の「展開表」について、実践を想定した活動フローについての議論 展開表における「環境の構成」「予想される幼児の姿」「指導上の留意点」についての三項関係について学修し、前週作成のフローを当てはめた記述の学修（主に書き写し）</p> <p>8 3歳児指導案の作成 3歳児製作活動（コスモス作り）指導案作成 2～7で学習した4歳児指導案を3歳児に変換する学修をします。年齢によるスキルの差、それに伴う教材の準備の仕方、声のかけ方等を学び、指導案に反映する。 展開表の課題提示</p> <p>9 3歳児指導案の作成 指導案添削表を配布します。解説後、前週の課題について学生間の相互添削を行う。</p> <p>10 5歳児指導案の作成 3歳児の指導案を5歳児の活動に変換し学修を進めます。教材研究、モノの準備、作製のレベル、声の掛け方を中心に、異年齢に沿った指導法の学修。 解説後、5歳児指導案の課題提示</p> <p>11 5歳児指導案の作成 前週課題（5歳児指導案）を学生間で相互添削を行う。（3ケース）</p> <p>12 5歳児指導案の作成 5歳児製作活動指導案 講義担当者作成指導案の模写、および説明</p> <p>13 5歳児製作活動模擬保育 前週作成した指導案をもとに模擬保育を行う。</p> <p>14 多様な指導案の形式について 全日保育指導案、自由遊び（マップ型）指導案の説明</p> <p>15 指導案確認表による自己評価 学年、時期を指定した保育記録を配布します。それをもとに指導案作成の課題を提示する。（評価対象）</p> <p>16</p> <p>17</p> <p>18</p>
授業のねらい及び概要	<p>幼児教育法Ⅱにおいては、Iで学修した「子ども理解」の方法を基にして保育実践（計画作成、実践、反省評価）に関する内容を中心に授業を進める。指導案の要となる「幼児の実態」の記入内容を吟味しながら「育ち」を導き出す方法（環境の構成・援助）と、ねらい及び内容、および展開への記述方法について学修する。 指導案（一斉活動）作成の学修を主にするが、加えて幼稚園での実務経験を生かし、予想される具体場面を</p>

	<p>想定した議論や、多様なケースの説明を加えていくことで、机上プランにとどまらない教育現場に即した計画立案への理解を深める。</p> <p>対話・議論型授業 [第2, 3回] 情報リテラシー [第8. 9. 11回] ICT活用 [第10回] グループワーク [第13回]</p>
到達目標	<p>到達目標1 幼稚園教育の役割と方法を理解するとともに、幼児理解の重要性について説明することができる。</p> <p>到達目標2 幼稚園教育要領について理解し、その概観を説明することができる。</p> <p>到達目標3 子どもの行動を観察し、心の動きや背景について理解し根拠に基づいた説明ができる。</p> <p>到達目標4 1～3をもとにした指導案記入事項「幼児の実態」の記述ができる。</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>
事前・事後学修	<p>幼児教育法Ⅱにおいては指導案作成に関する内容が主になります。</p> <p>事前学修：授業内で提示された指導案の該当期・学年の幼児の遊び生活の様子をリサーチし、いくつかの項目にまとめておくこと（要する時間90分）</p> <p>事後学修：相互添削において自分の指導案記入上の課題を明確にしておくこと（要する時間90分）</p>
評価方法	<p>講義内レポート（20%）定期試験（80%）を基準とし総合的評価します。</p> <p>提出を求めた課題（主に指導案）に対しては、講評という形でフィードバックするので、事後学習に活用すること。</p>
履修上の留意点	特にありません。
テキスト	幼児教育法1にて使用したものを継続します。
参考文献	わかりやすい指導計画作成のすべて 柴崎正行編著 ISBN 9784577812747 2010年 フレーベル 2,300円（税別）
教員e-mailアドレス	ishikawa@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	A棟1階LA101 研究室前に掲示

講義科目名称： 子ども家庭福祉

授業コード：

英文科目名称： child families welfare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
竹之下 典祥			
児教DP(3)に関連	児-専門-保育・幼児教育系-100	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	現代社会における子どもと家庭福祉にかかわる保育者の役割
授業計画	<p>1 講義：現代社会と子ども家庭福祉の理念 児童の定義、子どもの貧困の実相、低成長期家庭と離別母子世帯、少子化と共働き世帯の増加。 [コラム]を利用してリフレクションカードを回収しコメントする。</p> <p>2 講義：現代の子ども家庭福祉 改正児童福祉法の意義と子どもの権利条約の理念を歴史をたどり、確認していく。</p> <p>3 講義：子どもの権利・人権擁護 子ども観の変遷と子どもの主体性とアドボケート（権利の代弁）についても考察する。 [コラム]を利用してリフレクションカードを回収しコメントする。</p> <p>4 講義：子ども家庭福祉のなりたち 児童福祉法や子ども子育て支援法の成立に至る沿革と実施体系を概観する。 [小テスト]「子どもの権利」についての理解を確認する。</p> <p>5 講義・討論：子ども家庭福祉と専門職の役割 グループワークによって、これまでの単元のふりかえりテーマとして「子ども家庭福祉と保育士の役割」について、グループで議論した内容を発表し共有化したのち、全体で討議していく。</p> <p>6 講義：少子化と地域子育て支援 少子化がもたらした社会と地域子育て支援の意味を解き明かしていく。</p> <p>7 講義：母子保健と子どもの健全育成 [小テスト①]「子どもの定義」についての理解を確認する。</p> <p>8 講義：多様な保育ニーズへの対応について [コラム]を利用してリフレクションカードを回収しコメントする。</p> <p>9 講義：子どもへの不適切な対応（マル・トリートメント）とDV（ドメスティックバイオレンス） [小テスト②]「子ども虐待の定義」についての理解を確認する。</p> <p>10 講義：貧困家庭・外国籍の子どもへの対応について [コラム]を利用してリフレクションカードを回収しコメントする。</p> <p>11 講義：代替的養護（社会的養護）について</p> <p>12 講義：障害のある子どもへの対応について [コラム]を利用してリフレクションカードを回収しコメントする。</p> <p>13 講義：少年非行等への対応 [小テスト③]「子どもの権利」についての理解を確認する。</p> <p>14 講義：子育て支援と健全育成</p> <p>15 討論：子ども家庭福祉を担う保育士 [対話・討論型授業]半期の子ども家庭福祉の総括としてグループ対話と全体討論によって、保育士を志望する学生にとって必要な専門知識と役割について討論する。</p>
授業のねらい及び概要	<p>現代社会における子ども家庭福祉の意義と現状について理解し、社会福祉と児童福祉との関連性、さらに児童福祉の制度や実施体系等、保育者として必要な専門的知識を修得することを目的とする。そのため、子どもの養育にとって家庭の重要性の理解を深める。本教科では、担当者の25年のコミュニティワーカーとしての実務経験と、小学校区ごとの子育てサロンづくりを進めた経験を、子ども家庭福祉が抱える問題・課題と社会的背景の基本的理解について、学修に活かした講義を行う。グループワーク[第5回、第11回]、双方向アンケート：コラム[第1回、第3回、第8回、第10回、第12回]、双方向アンケート：小テスト[第4回、第7回、第9回]、対話・議論型授業[第15回]</p>
到達目標	<p>到達目標1 改正児童福祉法の基本理念の特徴を説明することができる。</p> <p>到達目標2 子どもの権利条約の重要ポイントを説明することができる。</p> <p>到達目標3 児童の定義と区分を法律に基づいて説明することができる。</p> <p>到達目標4 児童虐待の4つの区分と、その特徴について論じることができる。</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p>

	到達目標8
事前・事後学修	講義と討論を中心にすすめる。教科書とパワーポイント等を使った担当者の説明と、時事に応じた子ども家庭福祉問題について触れる。事前に示した单元ごとの課題について調べる(90分)、グループ討議を経て発表をして、履修者全体に問題と質問を投げかけてもらう参加型の学習をすすめる。グループ・全体で学修した单元の内容のふりかえりを行う(90分)。
評価方法	①学期末試験 [持ち込み一切不可]…………… (50%) ②学期中の小テスト[授業時に3回実施]…………… (30%) ③受講態度 [質疑応答/リフレクションカード]…………… (20%) ②小テストは自己採点を基本としてコメントする。③リフレクションカードは次の講義時に講評する。 ①学期末支援は採点后ポータルで講評する。以上を参考にフィードバックすること。
履修上の留意点	小テストとリフレクション・カードを配布し理解の程度や関心の深まりなどを確認する。 小グループでテーマを定めて、グループワークや全体ディスカッションを行い考察を深める。
テキスト	「子ども家庭福祉」柏女霊峰・澁谷昌史・伊藤嘉代子監修(全国社会福祉協議会)2,090円(税込) ISBN978-4-7935-1380-0(生協書籍コーナーで販売)
参考文献	保育小六法(ミネルヴァ書房) 最新保育資料集2021(ミネルヴァ書房)
教員e-mailアドレス	noriyosi@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	授業時に提示する。研究室:L A 2 1 0

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
竹之下 典祥			
児教D P (1)・(2)に関連	児一専門一保育幼児系一100	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	現代社会における人々のよりよい暮らしと保育者の役割		
授業計画	1	社会福祉の成立と理念・現代的課題 社会福祉が近代社会以降に登場した背景を歴史的にひも解き、現代社会での意味を考察する。	
	2	社会福祉の一分野としての子ども家庭福祉 保育士が最も関与する子ども家庭福祉は社会福祉のなかで、どのように位置づけられるのかを概観する。	
	3	児童の人権と社会福祉 子どもの人権が生起してきた歴史と、社会福祉の潮流を把握する。	
	4	家庭支援と社会福祉 現代社会で家庭が成立しがたい状況を知ったうえで、社会福祉の必要性について確認する。	
	5	社会福祉の制度と法体系 社会福祉のマクロな構造を理解するために、社会保障との関係や国際法・憲法からの位置づけを体系的に概観する。	
	6	社会福祉行財政と実施機関 税金や社会保険によって賄われる社会福祉と、福祉行政組織を国レベルと地方自治体レベルとの役割や範囲について把握する。	
	7	社会福祉施設と新制度 2000年の社会福祉基礎構造改革以降に進められてきた社会福祉制度と社会福祉施設の再編を関連づけて理解する。	
	8	社会福祉の専門職・実施者 社会福祉に従事するフォーマルな行政の専門職・従事者と、インフォーマルな専門職・従事者を合わせて理解する。	
	9	社会保障及び関連制度の概要 社会福祉より広義な社会保障の中に位置づけられる社会保険（医療・介護・雇用・労働災害等）と年金、災害補償等の構成と、国レベルと地方自治体レベルの関係や枠組みについて概観する。	
	10	相談援助の意義と原則 専門知識として必須な相談援助技術の概要と歴史的経過について理解をすすめる。	
	11	相談援助の方法と技術 専門知識として必須な相談援助技術の方法と内容について理解をすすめる。	
	12	社会福祉における利用者保護の仕組み 社会福祉基礎構造改革以降の市場開放に伴う、利用者保護を概観する。	
	13	社会福祉の動向①少子高齢社会への対応 高齢社会は同時に少子社会であることを人口動態を中心に戦後日本の動向を確認する。	
	14	社会福祉の動向②地域福祉推進と保育・教育・療育・保健・医療連携ネットワーク 少子高齢社会で、再び問われることとなった地域福祉について国の考え方と実情を把握する。	
	15	社会福祉の動向③諸外国の動向 先進国における少子高齢社会への取り組みを比較検討する。	
授業のねらい及び概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解し、社会福祉と児童福祉との関連性、さらに社会福祉の制度や実施体系等、保育士にとって必要な基本的知識を全般的に習得することを目的とする。そのため、社会福祉における相談援助・利用者保護、社会福祉の動向と課題についても理解するようにすすめる。担当教員は、枚方市社会福祉協議会25年間社会福祉に携わった。乳幼児・障害児者・高齢者・ひとり親家庭の市民に関わった。具体的には、知的障害者施設、ホームヘルプ、ボランティアセンター、福祉情報提供、福祉機器展示、福祉人材養成、総合相談、福祉人権相談、成年後見専門員、地域担当専門員（コミュニティワーカー）、福祉活動計画策定担当者、高齢者地域包括支援センター所長兼社会福祉士の業務で培った経験を現代日本が、少子高齢社会、人口減少社会として抱える課題や背景となる要因の学修に活かした講義を行う。[コラム等の活用]双方向アンケート活用したリフレクションカード [第1回、第2回、第4回、第5回、第7回、第8回、第10回、第11回]に行く。「小テスト」を[第6回、第9回、第12回]に行い、答え合わせで解説を行う。		
到達目標	到達目標1	福祉六法の成立と年を年表（テキスト等）を見なくても具体的に例示できる。	
	到達目標2	社会福祉の重要な理念について2つ以上例示し説明できる。	
	到達目標3	社会福祉と子ども家庭福祉の関係や相違点を論じることができる。	
	到達目標4		
	到達目標5		

	到達目標6 到達目標7 到達目標8
事前・事後学修	講義と対話を中心にすすめる。教科書とパワーポイントを使った担当者の講義と、単元ごとに提示する時事に応じた社会福祉問題を提示する。課題について予め調べて予習しておく（90分程度）。授業時に何人かの受講生に問題や質問を投げかけ、また投げ返してもらい参加型の学習をすすめる。リフレクション・カードを配布し理解の程度や関心を推し量る。また、講義中に3回の小テストを行い理解の定着を促す。振り返りの復習を行う（90分程度）。
評価方法	①学期末試験 [持ち込み一切不可]…………… (50%) ②学期中の試験[授業時に小テスト3回実施]…………… (30%) ③受講態度 [リフレクションカード/質疑応答]…………… (20%) 小テスト・リフレクションカードはその都度講評する。小テストと期末試験は連関した内容で実施するので講評を参考にすること。期末試験の結果はポータルを通して講評するので事後の学習に活用してほしい。
履修上の留意点	1年次の講義であるが、保育士が福祉職であること、また児童家庭福祉は社会福祉の一分野であることを念頭において、時事問題（新聞・ニュースなどの報道）に関心を向けて受講することを期待する。 ※特に児童教育コースの学生も1年次に受講することが望まれる。
テキスト	「保育と社会福祉【第3版】」橋本好市・宮田徹編集（中央法規）2,300円(税別) ISBN978-4-86015-459-2（生協書籍コーナーで販売）
参考文献	「国民の福祉・介護の動向」（厚生統計協会） 「保育小六法」（ミネルヴァ書房）
教員e-mailアドレス	noriyosi@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室LA210。研究室前に掲示する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
杉山 功			
栄養DP(2)に関連	栄養一専門一基幹科目	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理を理解する。講義日時2022. 4. 13 A2限 B1限		
授業計画	1	成長、発達、加齢の概念① 成長・発達に伴う身体的・精神的変化について	
	2	成長、発達、加齢の概念② 加齢（老化）に伴う身体的・精神的変化と栄養	
	3	妊娠期・授乳期の栄養① 妊娠期の生理的特徴	
	4	妊娠期・授乳期の栄養② 妊娠期の栄養管理	
	5	妊娠期・授乳期の栄養③ 授乳期の生理的特徴、栄養管理	
	6	新生児期・乳児期の栄養① 新生児・乳児期の身体特性、生理的特徴	
	7	新生児期・乳児期の栄養② 新生児・乳児期の栄養管理・乳児期の栄養補給法	
	8	新生児期・乳児期の栄養③ 乳児期の栄養補給法	
	9	成長期（幼児期）の栄養① 幼児期の生理的特徴	
	10	成長期（幼児期）② 幼児期の栄養管理	
	11	成長期（幼児期）③ 幼児期の栄養管理（演習）	
	12	成長期（学童期・思春期）の栄養① 学童期・思春期の生理的特徴	
	13	成長期（学童期・思春期）の栄養② 学童期の栄養管理	
	14	成長期（学童期・思春期）の栄養③ 学童期の栄養管理（演習）	
	15	成長期の栄養 栄養評価の演習	
授業のねらい及び概要	ライフステージ（妊娠から出産、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期に至るまで）における生体の形態的、機能的特徴を理解する。また、ライフステージにおける生活環境、食生活や栄養素等摂取の特徴を理解し、それに基づく栄養管理を修得する。本授業は、成長・発達・加齢に伴う身体的特徴と栄養について理解し、各ライフステージの栄養管理を修得することを学習目標とし、以下を個別目標とします。担当教員は総合病院を含む病院栄養士としての38年間の実務経験を基に実践現場での具体的な事例を紹介しながら解説することで理解に導く。		
到達目標	到達目標1	各ライフステージにおける生態的、機能的特徴を理解し、説明できる。	
	到達目標2	各ライフステージの栄養管理について説明できる。	
	到達目標3	栄養介入目標に沿って栄養介入計画、栄養モニタリング・評価について説明できる。	
	到達目標4		
	到達目標5		
	到達目標6		
	到達目標7		
	到達目標8		
事前・事後学修	事前学修として、次回の授業で扱う教科書の該当箇所を読みキーワードを3つ程度挙げておくこと（90分程度）。また、事後学修として、各ライフステージ終了ごとに講義内容を振り返る演習をおこない解答を配付しますので、自宅学習であらためて確認をし理解を深めておいてください（90分程度）。		

評価方法	出席評価(15%)を前提に筆記試験(80%)の内容により総合的(5%)に評価します。
履修上の留意点	この講義には、基礎となる解剖生理学・生化学、基礎栄養学を復習して授業に臨んでください。講義で得られる知識は、これから学ぶ臨床栄養学など関連専門科目の基礎となることから、十分な予習、復習をしてください。
テキスト	渡邊玲子 伊藤節子 瀧本秀美 編集「応用栄養学」南江堂
参考文献	厚生労働省策定検討会報告書「日本人の食事摂取基準（2020）」
教員e-mailアドレス	i_sugiyama@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2	必修
担当教員			
氏家 真梨			
栄養DP(1)・(2)に関連	栄 - 専門 - 展開科目	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	傷病者などの栄養状態に応じた栄養管理と栄養補給法を理解する。
授業計画	<p>1 オリエンテーション、栄養ケア・マネジメントの概要 オリエンテーション 講義の概要、授業計画、評価方法などについて 栄養ケア・マネジメントの概要 臨床栄養管理の意義と目的、栄養スクリーニング、栄養アセスメントについて</p> <p>2 代謝系疾患・栄養障害1 病態別栄養ケア・マネジメント</p> <p>3 代謝系疾患・栄養障害2、内分泌系疾患 病態別栄養ケア・マネジメント</p> <p>4 消化管疾患 病態別栄養ケア・マネジメント</p> <p>5 肝・胆・膵疾患 病態別栄養ケア・マネジメント</p> <p>6 循環器系疾患 病態別栄養ケア・マネジメント</p> <p>7 腎・尿路系（泌尿器系）疾患1 病態別栄養ケア・マネジメント</p> <p>8 腎・尿路系（泌尿器系）疾患2、神経・精神系疾患 病態別栄養ケア・マネジメント</p> <p>9 呼吸器系疾患、血液・造血器系疾患 病態別栄養ケア・マネジメント</p> <p>10 運動器（骨格）系疾患 病態別栄養ケア・マネジメント</p> <p>11 免疫・アレルギー系疾患、感染症 病態別栄養ケア・マネジメント</p> <p>12 がんとターミナルケア 病態別栄養ケア・マネジメント 経腸栄養法（EN）について</p> <p>13 周術期の管理、クリティカルケア 病態別栄養ケア・マネジメント 静脈栄養法（PN）について、水分管理、電解質管理</p> <p>14 摂食嚥下障害 病態別栄養ケア・マネジメント</p> <p>15 障害者に対するケア、講義の総まとめ 病態別栄養ケア・マネジメント 講義のまとめと期末試験の準備について</p>
授業のねらい及び概要	<p>臨床栄養管理学は、医療・福祉・保健のすべてにおいて必要な知識であり、傷病者や要支援・要介護者の栄養状態を的確に評価・判定し、身体の状態に見合った適切な栄養補給を行い、栄養状態を改善することにより、疾病の発症を予防・治癒することである。</p> <p>臨床病態を基に、適切な栄養管理を実践するための栄養アセスメント法と栄養療法を理解し、入院療養から在宅療養を含めて必要な栄養管理法について栄養治療の専門職として必要な知識を学ぶ。</p> <p>担当教員は、急性期医療および療養型の医療施設（病院）において、様々な業務を担う管理栄養士の実務経験を有していることから、臨床の実践における具体的事例を挙げ、より実践的な栄養管理の知識と技術の習得につなげる。</p>
到達目標	<p>到達目標1 各疾患の栄養アセスメント項目について理解し、説明することができる。</p> <p>到達目標2 栄養アセスメントをもとに、実践的な栄養プランを立案することができる。</p> <p>到達目標3 各疾患の病態を理解し、経口栄養法、経腸栄養法、静脈栄養法の選択について理解し、説明することができる。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p>

	到達目標7 到達目標8
事前・事後学修	<p><事前学修：90分程度> 講義予定のテキスト該当部分について熟読しておくこと。その際、検査項目の適正值についても確認しておく。また各章の文献にある各疾患のガイドラインについても調べておくことよい。</p> <p><事後学修：90分程度> 学修した内容についてテキスト・配布資料・解説などを基にノートをもとめておくこと。 分野により、授業目標到達度を確認するために課題の提出を求めることがある。疾患ごとに要点などをしっかりまとめておくことよい。提出課題は返却時に個別にコメントするか、授業内での総評をもってフィードバックする。</p>
評価方法	15回分の講義内容に対し100点満点の期末試験を実施し、60点以上の者を合格とする。試験内容の詳細は、講義の中で説明する。採点后、指示した期間内に返却を希望する者は返却可能とする。返却方法は別途指示する。
履修上の留意点	<p><履修の準備> 臨床栄養学、解剖生理学、臨床医学、基礎栄養学をよく復習しておくことは必須である。</p> <p><欠席・遅刻の扱い> 授業開始後30分以内の入室は遅刻、30分以降の入室は欠席とする。遅刻は3回で欠席1回にカウントする。授業回数に対し2/3以上出席できない場合には単位は与えられない。 やむを得ず欠席した場合には、通学可能となった後速やかに欠席回の配布資料を取りに来て授業内容を確認すること。</p> <p><受講中の注意> 基本的に授業中のスマートフォンおよび携帯電話の使用は認めない。講義内容の撮影（動画・写真）も許可を得た場合以外、一切認めない。 ※臨床栄養学実習や臨床栄養学臨地実習に直結することを念頭に受講すること。 ※授業の進捗状況や理解度により授業計画を一部変更することがある。</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・「栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別編」本田佳子 他編，羊土社 ISBN978-4-7581-0883-6 ・「メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック」佐々木雅也編，南江堂（臨床栄養学の教科書） ・「糖尿病の食事療法のための食品交換表 第7版」日本糖尿病学会編・著，文光堂 ISBN978-4-8306-6046-7（臨床栄養学で購入済の場合はそれを使用） ・「腎臓病食品交換表 第9版 治療食の基準」黒川清監修／中尾俊之編，医歯薬出版 ISBN978-4-263-70674-9 ・「サクセスシリーズ 臨床栄養学総論」外山健二 他編，第一出版（臨床栄養学の教科書）
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾患の治療/診療ガイドラインなど ・「静脈・経腸栄養ガイドライン」日本静脈経腸栄養学会編，照林社 ・「日本静脈経腸栄養学会 静脈経腸栄養テキストブック」日本静脈経腸栄養学会編，南江堂 ・「病態栄養ガイドブック」日本病態栄養学会編，南江堂 ・「認定NSTガイドブック」武田英二 他編，メディカルレビュー社 <p>ほか、講義の中で紹介する。</p>
教員e-mailアドレス	ujiie@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室前に掲示する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
久保木 眞			
栄養DP(1)に関連	栄－専門－専門支持科目	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	チーム医療の一員（管理栄養士）として必須となる臨床医学の基礎的知識を習得する。
授業計画	<p>1 臨床医学と管理栄養士の関わり、チーム医療について 臨床医学と管理栄養士の関わり、チーム医療について学ぶ。また、高齢化社会における管理栄養士の果たすべき役割についても考える。</p> <p>2 加齢・疾患に伴う変化 加齢と疾患に伴う変化、個体の死について学ぶ。</p> <p>3 老化 健康寿命延伸における老化研究の最前線について理解を深める。</p> <p>4 疾患診断の概要 医療面接の重要性、疾病の診断法（臨床検査、画像診断など）について学ぶ。</p> <p>5 疾患治療の概要 治療の手順、栄養評価、栄養療法の概要について学ぶ。特に栄養学的指標となる血液生化学検査項目を理解する。</p> <p>6 ロコモティブシンドローム・サルコペニア・フレイル ロコモティブシンドローム・サルコペニア・フレイルの関連性、サルコペニア・フレイルの病態、疫学、介入法などについて学ぶ</p> <p>7 栄養障害と代謝疾患 栄養・代謝に関わるホルモン・サイトカイン、先天性代謝異常症について学ぶ。</p> <p>8 肥満・メタボリックシンドローム 肥満と肥満症との違い、肥満の評価法、肥満によってもたらされる健康障害について学ぶ。また、肥満に起因するメタボリックシンドロームを理解する。</p> <p>9 糖尿病 血糖の調節機構を理解し、糖尿病の成因、分類、診断を学ぶ。</p> <p>10 脂質異常症・動脈硬化・高尿酸血症（痛風） 尿酸代謝、高尿酸血症（痛風）の病態、治療について学ぶ。</p> <p>11 消化器疾患 栄養素の消化・吸収機構を理解し、消化器疾患の疾患の概要を学ぶ。</p> <p>12 循環器・呼吸器疾患 循環器疾患および呼吸器疾患を学ぶうえで重要な血液凝固線溶機構、心機能、肺機能を再確認し、代表的な疾患の概略を理解する。</p> <p>13 腎・尿路疾患 腎機能を理解する。そのうえで、各種腎・尿路疾患の概略を学ぶ。</p> <p>14 免疫・アレルギー系疾患 免疫機構、アレルギーの成り立ちを理解する。代表的な自己免疫性疾患を学ぶ。</p> <p>15 感染症 感染症をもたらす病原体の種類、感染経路について理解し、各種感染症の種類について学ぶ。</p>
授業のねらい及び概要	<p>わが国では食事を含む生活習慣の変化、肥満、高齢化などにより、疾病構造が大きく変化してきていることより、管理栄養士の役割がますます重視されてきている。管理栄養士がチーム医療の一員として活動するためには、疾病の成因、病態、診断、治療を幅広く理解していることが基本である。そのためには、正常な人体の構造や機能を系統的に学ぶとともに、疾病の発生機序、病態を理解する必要がある。臨床医学総論では、各領域の代表的な疾患における成因、病態、診断および治療についてその概要を学ぶ。ICT ツールを用い、スマートフォンを活用した参加型、双方型授業を行う。</p> <p>担当教員は、内科医師として山形大学医学部、川崎医科大学での講義、付属病院および関連病院での実務経験を有していることから、実臨床に即した患者からの視点を重視した授業展開を行う。</p>
到達目標	<p>到達目標1 人体を構成する各臓器の形態及び機能を理解しその特徴を述べる事が出来る。</p> <p>到達目標2 チーム医療の役割・意義について述べる事が出来る。</p> <p>到達目標3 代表的な疾病の成因、病態、診断および治療について述べる事が出来る。</p> <p>到達目標4 高齢化社会における管理栄養士の役割を論ずることが出来る。</p> <p>到達目標5 健康寿命延伸に必要な条件を説明することが出来る。</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>

事前・事後学修	講義開始日に全体の学修方法を提示する。講義は教科書に沿って進めるが、新聞、書籍、インターネットなどから最新の医学ニュースを積極的に講読し幅広い知識を得ること。 事前学修は、テキストを読み、医学用語と疾患の概要を大まかにつかんでおくこと(要する時間80分) 講義終了後は、ノートに図解しながら、各疾患の概要についてをまとめること(要する時間100分)
評価方法	授業の習熟度を評価するためのレポート(50%)と期末試験の成績(50%)により総合的に評価する。レポートに対しては、講評の形でフィードバックするので事後学修に活用すること。
履修上の留意点	解剖学、生理学、生化学の基礎的知識を有しているものとして講義を進める。 事前学修の際に、関連する基礎的知識の復習を行っておくこと。
テキスト	臨床医学 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち: 南江堂 ISBN 978-4-524-24619-9
参考文献	実践 肝疾患の栄養療法 肝と栄養の会 編集 南江堂 ISBN4-524-23973-1 Death「死」とは何か シェリー・ケーガン著 柴田裕之訳 文響社 ISBN-10 4866510773 ISBN-13 978-4866510774 LIFE SPAN (ライフスパン) ー老いなき世界 デビッド・A・シンクレア ISBN 978-4492046746 サルコペニア診療実践ガイド サルコペニア診療実践ガイド作成委員会 ISBN 978-4897753874
教員e-mailアドレス	久保木眞 mkuboki@morioka-u. ac. jp
オフィスアワー	原則として講義実施日の日中。久保木研究室 (LB109号室)。質問などは随時メールで対応する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	必修
担当教員			
久保木 眞			
栄養DP(1)に関連	栄－専門－専門支持科目	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	医学総論を基礎にして管理栄養士に必要な各種疾患に関する知識をさらに深める。
授業計画	<p>1 代謝系疾患 糖尿病の診断、病態、治療などについての再度確認し、知識をさらに深める。 脂質異常症、動脈硬化についての知識をさらに深める。</p> <p>2 消化器疾患（消化管、肝・胆・膵） 食道疾患、胃・十二指腸疾患、小腸・大腸疾患、肝臓疾患特に肝硬変、胆道系疾患（胆嚢・胆管癌、胆石症、その他）、膵臓疾患（急性及び慢性膵炎、膵癌）について学ぶ。</p> <p>3 循環器疾患 高血圧、狭心症・心筋梗塞、心不全についての知識を深める。</p> <p>4 腎・尿路系疾患 急性及び慢性腎不全の病態・治療についての知識を深める。</p> <p>5 内分泌疾患 栄養代謝異常をきたす代表的な内分泌疾患についての知識を深める。</p> <p>6 神経・精神系疾患 神経変性疾患、痴呆を中心に知識を深める。</p> <p>7 呼吸器疾患 肺癌、慢性閉塞性肺疾患についての知識を深める。</p> <p>8 運動系・生殖器系疾患 骨粗鬆症、サルコペニアについての病態を理解する。また、男性では前立腺疾患、女性では卵巣・子宮体の疾患、更年期障害などについての知識を深める。</p> <p>9 血液・造血器・リンパ系疾患 白血病（急性、慢性）、悪性リンパ腫についての知識を深める。</p> <p>10 免疫・アレルギー性疾患 代表的な自己免疫性疾患、アレルギー疾患についての知識を深める。</p> <p>11 感染症 細菌感染症、ウイルス感染症を中心に知識を深める。</p> <p>12 悪性腫瘍 腫瘍の概念、良性及び悪性腫瘍の病理組織学的特徴、各種癌の特徴などを理解する。</p> <p>13 人体解剖実習オリエンテーション 岩手医科大学解剖学講座 教授 齋野朝幸による講義</p> <p>14 人体解剖実習見学1 岩手医大矢巾キャンパスで実施 岩手医科大学解剖学講座 教授 齋野朝幸</p> <p>15 人体解剖実習見学2 岩手医大矢巾キャンパスで実施 岩手医科大学解剖学講座 教授 齋野朝幸</p>
授業のねらい及び概要	臨床医学総論を基に、管理栄養士が学ぶべき各領域（栄養と代謝、消化器系、循環器系、呼吸器系、腎・尿路系、内分泌系、神経・精神系、血液・造血器・リンパ系、運動器・生殖器系、感染症、免疫・アレルギー、悪性腫瘍）の疾病について成因、病態、診断、治療法についての知識をさらに深める。 ICT ツールを用い、スマートフォンを活用した参加型、双方型授業を行う。担当教員は、内科医師として山形大学医学部、川崎医科大学での講義、付属病院および関連病院での実務経験を有していることから、実臨床に即した患者からの視点を重視した授業展開を行う。
到達目標	<p>到達目標1 各疾患の成因・病態・診断・治療法を述べる事が出来る。</p> <p>到達目標2 最近の医学・栄養領域のトピックスについてその概要を述べる事が出来る。</p> <p>到達目標3 臨床腫瘍学の概要とその意義を述べる事が出来る。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>
事前・事後学修	講義開始日に全体の学修方法を提示する。講義は教科書に沿って進めるが、新聞、書籍、インターネットなど

	から最新の医学ニュースを積極的に講読し幅広い知識を得ること。 事前学修は、テキストを読み、医学用語と疾患の概要を大まかにつかんでおくこと(要する時間80分) 講義終了後は、ノートに図解しながら、各疾患の成因・病態・診断・治療等についてをまとめること(要する時間100分)
評価方法	授業の習熟度を評価するためのレポート(50%)と期末試験の成績(50%)により総合的に評価する。レポートに対しては、講評の形でフィードバックするので事後学修に活用すること。
履修上の留意点	臨床栄養学と並行して学ぶこと。
テキスト	臨床医学 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち: 南江堂 ISBN 978-4-524-24619-9
参考文献	実践 肝疾患の栄養療法 肝と栄養の会 編集 南江堂 ISBN4-524-23973-1 LIFE SPAN (ライフスパン) ー老いなき世界 デビッド・A・シンクレア ISBN 978-4492046746 サルコペニア診療実践ガイド サルコペニア診療実践ガイド作成委員会 ISBN 978-4897753874
教員e-mailアドレス	久保木眞 mkuboki@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	原則として講義実施日の日中。久保木研究室 (LB109号室)。質問などは随時メールで対応する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
木村京子			
栄養D P (2) に関連	栄 - 専門 - 展開科目	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	傷病者の栄養状態と病態の関係、および栄養療法について理解する。
授業計画	<p>1 臨床栄養の意義と目的、医療における臨床栄養</p> <p>2 医療制度の基本、福祉・介護における臨床栄養、介護保険制度</p> <p>3 医療と臨床栄養</p> <p>4 栄養アセスメントの意義と具体的方法 : 問診・臨床診査</p> <p>5 栄養アセスメントの意義と具体的方法 : 身体計測</p> <p>6 栄養アセスメントの意義と具体的方法 : 臨床検査</p> <p>7 栄養アセスメントの意義と具体的方法 : 栄養・食事調査</p> <p>8 栄養ケアの目標設定と計画作成: 栄養アセスメントによる栄養投与量の設定</p> <p>9 栄養補給法1: 各種栄養補給法とその選択、経腸栄養法 (EN: enteral nutrition)</p> <p>10 栄養補給法2: 静脈栄養法 (PN: parenteral nutrition)</p> <p>11 栄養補給法3: 一般食</p> <p>12 栄養補給法4: 特別治療食</p> <p>13 傷病者・要支援者・要介護者への栄養教育</p> <p>14 薬と栄養・食事の相互作用</p> <p>15 臨床経過のモニタリング、再評価、栄養ケアの記録法</p>
授業のねらい及び概要	<p>傷病者の栄養状態と病態の関係を理解し、臨床で実践するための栄養管理目標の設定、栄養評価、問題点抽出、指導効果指標を理解する。</p> <p>傷病者に対する栄養療法をすすめるうえで、その内容の決定に必要なとされる病因、症状、栄養評価指標との関連について講義する。</p> <p>また、この授業では、秋田県厚生連平鹿総合病院栄養科において管理栄養士として、食事療法や栄養指導・栄養管理に携わってきた実務経験に基づき、栄養治療の専門職として必要な栄養の知識を講義する。</p>
到達目標	<p>到達目標1 傷病者に対する栄養療法をすすめるうえで必要な栄養評価項目について、評価の目的、方法、基準値を具体的に説明することができる。</p> <p>到達目標2 病態別栄養ケア・マネジメントを実施するための栄養管理目標を設定できる。</p> <p>到達目標3 個別の疾患および病態や心身機能に基づいた栄養管理並びに食事療法を理解し、栄養療法について説明できる。</p> <p>到達目標4</p> <p>到達目標5</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p> <p>到達目標8</p>
事前・事後学修	臨床医学、解剖生理学を復習しておくことは必須である。さらに、基礎栄養学をあわせて事前に学修しておくこと(要する時間90分)。可能な限り最新の内容を講義するので、従前と異なる経緯やポイントをしっかりと理解できるように復習すること(要する時間90分)。

評価方法	定期テスト70%,小テスト20% (3回程度) レポート・その他 (10%) の成績により総合的に評価する。定期テストは60点以上を合格とし、不合格者には再テストを実施します。 小テストについては解説を行うので、事前事後学習に活用すること。 レポートに対しては、講評の形でフィードバックするので、事前事後学習に活用すること。
履修上の留意点	臨床栄養学は、保健・医療・福祉のすべてにおいて必要な知識である。臨床栄養学実習や臨地実習（臨床栄養学）に直結する講義なので、そのことを念頭に置いて受講すること。また、保健・医療・福祉以外で活躍する管理栄養士であっても、健康に取り組む分野であれば、その基礎となる講義として学ぶ事。
テキスト	外山健二，他編：臨床栄養学総論，第一出版，978-4-8041-1364-7 佐々木雅也　：メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック、南江堂、978-4-524-26754-5
参考文献	講義内で提示する。
教員e-mailアドレス	kimura@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	B棟2階 LB-203研究室，研究室に掲示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2	必修
担当教員			
佐藤 ななえ			
栄養DP（1）に関連	栄一専門一展開科目	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	人々の生活の場（地域、国、地球）での栄養と健康との関わりや課題、施策等を理解する。		
授業計画	1	公衆栄養学の概念 オリエンテーション含む	
	2	公衆栄養活動の視点① 人々の良好な健康や栄養を確保するための社会的フレームワーク 持続可能な食料供給体制と生態系・地球環境 保健医療システムと栄養	
	3	公衆栄養学の視点② 社会保障と栄養 公共政策と栄養 公衆栄養学の目的と方法	
	4	世界の健康・栄養問題① 現状と課題	
	5	世界の健康・栄養問題② 健康・栄養政策/国際的な栄養関連の取り組み	
	6	公衆栄養マネジメント① 概要/健康・栄養政策の枠組み/ヘルスプロモーションの考え方と健康なまちづくり	
	7	公衆栄養マネジメント② ブリーフプロシードモデル/ソーシャルマーケティング	
	8	公衆栄養マネジメント③：仮題＞行動科学に基づく健康づくりの展開 行動経済学を研究分野とする講師をゲストとして招いての講義	
	9	公衆栄養マネジメント④ 公衆栄養スクリーニング/アセスメント（地域診断）	
	10	公衆栄養マネジメント⑤ 情報収集の実際/活用できる既存資料の種類と内容/公衆栄養プログラムの計画（課題抽出と目標設定）	
	11	公衆栄養マネジメント⑥ 公衆栄養プログラムの実施・評価	
	12	公衆栄養マネジメント総括 公衆栄養マネジメントの概要と考え方、進め方について第1回～第5回目の講義内容と関連付けて理解する	
	13	栄養疫学① 疫学と栄養疫学/栄養疫学の目的/栄養学的曝露の評価（食事調査法）	
	14	栄養疫学② 食事摂取量の評価（DRISを用いた評価、総エネルギー調整、食事パターン、食知識・食スキル・食態度・食行動）	
	15	栄養疫学③ 栄養疫学研究のデザインと具体例/栄養疫学データの解析・結果の活用	
授業のねらい及び概要	本講義では、10年後、100年後の未来とそこに生きる人々の健やかな暮らしを見据え、まず世界的な視点から俯瞰的に学び、考える。地球レベルで、「人権としての栄養の問題」とその解決のために必要な基本的な知識及び原理を学ぶ。担当教員は、行政管理栄養士の実務経験を有していることから、実践現場での具体的な事例を紹介しながら解説することで理解に導く。		
到達目標	到達目標1	公衆栄養学の概念や視点、目的や方法について理解し、それを説明できる。	
	到達目標2	世界の健康・栄養問題と対策（国際的な取り組み）について理解し、それを説明できる。	
	到達目標3	公衆栄養マネジメントの概要と考え方、進め方について到達目標1および2と関連付けて理解し、それを説明できる。	
	到達目標4	食事摂取基準を用いた集団の食事摂取量評価の考え方と方法について理解し、それを説明できる。	
	到達目標5	栄養疫学の意義と手法、データ解析および活用について理解し、それを説明できる。	
	到達目標6		
	到達目標7		

	到達目標8
事前・事後学修	<p><事前学修：90分程度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義予定のテキストの該当箇所の講読（音読を推奨） <p>※その際、巻末の索引から該当ページのキーワードを拾い、索引と該当ページのキーワードをマークし、特にその部分を重点的に読み込み、ノートに整理したうえで授業に臨む。わからない用語は、意味を調べておく。</p> <p><事後学修：90分程度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元が終わる毎に、テキストを通して読み返す（図表脚注に記された出典を含めて再読する） ・事後学修により疑問点を早期に解決する（テスト直前まで放置しない）。 ・授業で配布された学修プリントに取り組む。 ・到達目標に関し、自分で文章にまとめ、家族や友人を相手に口頭で説明してみる。 ・学んだ内容に関し、自分で質問文を作り、自問自答してみる。
評価方法	<p>授業目標の到達度を評価するため、期末試験期間中に筆記試験（100点満点）を行い、60点以上の者を合格とする。再試験は実施しない（不合格者への措置は一切ない）。試験の範囲は、15回の授業で行った内容すべてとなる（テキスト、配布資料、授業で話したこと）。範囲が広いので、日々しっかり学修しておくこと。なお、試験では「到達目標項目」について「理解し説明できるか」を評価する必要があるため、思考的問題や記述式解答を多く取り入れる。</p> <p><出欠席等について></p> <p>授業では、30分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。「遅刻・早退をあわせて3回」は欠席1回とみなす。また、2/3以上出席しなかった（公欠以外の欠席が5回を上回った）場合、試験は受験できない。</p>
履修上の留意点	<p>本科目は、社会医学である公衆衛生学の一分野でもある。日ごろから、保健・医療・福祉行政にかかわる報道等に接し、健康・栄養問題に関する社会情勢に敏感になること。また、自学自修の手助けとなるような資料が配布された際には、それらに積極的に取り組み、より深い理解につなげる。なお、講義で用いるスライドについては、周囲への配慮や著作権上の観点から、許可がない限り撮影は禁止する（撮影した場合減点対象とする：1回につき10点。また、注意しても撮影を繰り返す場合は、退室を求める）。授業の進行状況やゲストスピーカーの都合などにより授業計画を変更することがある。</p> <p><教員への連絡に関するルール></p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席、遅刻の連絡は、mellyの個別連絡、あるいは大学アドレスによるメールで行う（連絡した日時が記録されるため）。そのうえで、必ず学生部に届け出る。 ・mellyの個別連絡を使った教員への問い合わせには対応しない。メールを用いる、オフィスアワーに研究室を来訪するなど問い合わせること。 <p>※ポータルでのmellyは「LINE」ではない。</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・吉池信男 編著：公衆栄養学-栄養政策、地域栄養活動の理論と展開（第三版）ISBN：978-4-8041-1315-9 第一出版 2022（3080円） ・栄養マネジメントで使用した、以下2つのテキストも適宜使用する（指示があった場合に準備のこと） 食事調査マニュアル / 日本人の食事摂取基準2020
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本栄養改善学会監修 徳留裕子、伊達ちぐさ編：食事摂取基準-理論と活用 医歯薬出版 2016 ・水嶋春朔：地域診断のすすめ方 第2版 医学書院
教員e-mailアドレス	nanae@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	<p>研究室：B校舎2階西側：B207 時間帯：時間割確定後、研究室前に掲示する</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2	必修
担当教員			
秦 希久子			
栄養DP(1)に関連	栄－専門－展開科目	実務経験のある教員による授業	
添付ファイル			

小見出し	給食施設での栄養管理と食事サービスの運営を学ぶ。
授業計画	<p>1 給食の定義・目的</p> <p>2 給食における管理栄養士・栄養士の役割と給食施設の特徴</p> <p>3 給食の安全・衛生管理①</p> <p>4 給食の施設・設備の概要（給食経営管理実習室の見学） 《アクティブラーニング》</p> <p>5 給食の安全・衛生管理②</p> <p>6 食材の管理と大量調理（管理の意義と目的：発注・検収・保管等）</p> <p>7 栄養・食事計画1（日本人の食事摂取基準2020と給食計画：サイクルメニュー作成）</p> <p>8 栄養・食事計画2（アセスメント情報に基づいた栄養目標量の算出）</p> <p>9 栄養・食事計画3（食品群別荷重平均成分表／食品構成表の作成と献立計画/サイクルメニュー作成演習）</p> <p>10 栄養・食事計画4（献立の栄養的評価と栄養管理報告書）</p> <p>11 給食施設の概要・事例・業務① 高齢者福祉施設</p> <p>12 給食施設の概要・事例・業務② 学校給食施設</p> <p>13 給食施設の概要・事例・業務③ 事業所 外部講師を招いて、実践現場での実際の仕事について学ぶ 《講師：事業所または委託給食会社 管理栄養士》</p> <p>14 給食施設の概要・事例・業務のまとめ 学校給食/高齢者福祉施設/事業所の給食の特徴についてそれぞれ説明できるようにまとめる</p> <p>15 給食実務論のまとめと給食経営管理論に向けた課題説明</p> <p>外部講師との日程調整や理解度合いにより、授業内容は変更になる場合があります</p>
授業のねらい及び概要	<p>特定給食における利用者や特定集団の身体状況、栄養状態、利用の状況に応じた栄養・食事管理の基本的な知識と技能を修得する。</p> <p>給食の計画・生産(調理)・サービスに必要な給食全般の実務について理解する。具体的には食事計画（給与栄養目標量の設定、食品構成表、献立計画、食材の発注、大量調理、事後の評価と栄養報告書の作成など）、施設設備管理、衛生管理を理解し、給食の総合的な品質管理の実務について学ぶ。</p> <p>本講義では、臨床現場やコミュニティカフェでの給食の運営の経験がある教員により、実践現場での課題や現状および今後の展望などを交えて論じていく。</p>
到達目標	<p>到達目標1 給食の目的と特徴を説明できる。</p> <p>到達目標2 特定給食施設の特徴および給食施設における管理栄養士・栄養士の役割について説明できる。</p> <p>到達目標3 栄養アセスメントに基づき特定集団の給与栄養目標量を設定できる。</p> <p>到達目標4 給与栄養目標量に見合った食品構成表と献立を作成できる。</p> <p>到達目標5 大量調理における適切な衛生管理について説明できる。</p> <p>到達目標6</p> <p>到達目標7</p>

	到達目標8
事前・事後学修	<p><事前学修：90分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業前に教科書を熟読し、わからない言葉などは辞書で調べまとめる。 ・給食・経営管理・マネジメント・衛生管理をキーワードに新聞などのニュース等を日々確認しまとめる。 ・献立作成のために、料理についても勉強し日ごろから調理する。 <p><事後学修：90分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・習った単元について次回授業の復習テストで説明ができるようにしておく。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験60点以上とすべての課題の提出で単位取得。特にサイクルメニュー課題を提出していない場合は試験が60点以上でも単位取得とならない可能性が高いため、課題は期限を守って提出すること。期末試験をパスし、かつ課題を全て提出した者に関して、小テスト10% 提出物10% 定期試験80%を基本として総合的に評価する。 ・提出課題、小テストに関しては講評の形で授業中にフィードバックするので、事前・事後学習に活用すること。 ・再試験は実施しないため、日々の予習復習が重要となる。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・演習も実施する。演習には電卓、食品成分表、食事摂取基準等を使用するため、準備しておくこと。 ・提出物は未完成および期限を過ぎたものは評価の対象とはならないので、期限を守り完成させること。 ・基本的に欠席や遅刻は認めない。やむを得ず欠席をする場合は、事前に連絡し、欠席後は速やかに授業の内容の質問や配布資料を取りに秦研究室まで来ること。授業開始直前の研究室来訪や教室での対応はしない。余裕をもって質問や資料等の受け取りをすることを求める。 ・授業開始から30分以降の授業参加は欠席とみなす。遅刻は3回で欠席1回にカウントする。 ・授業内容の質問については、Mellyではなく直接研究室に訪問すること。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・三好恵子編著 第4版「給食経営管理論」第一出版 ISBN 978-4804114361 ・食事計画演習で使用した食事調査の青ファイル ・新食品成分表FOODS 2021 東京法令出版 (食事計画演習テキスト) ・日本人の食事摂取基準2020年版 第一出版 (食事計画演習テキスト) ・調理のためのベーシックデータ第5版 女子栄養大学出版 (食事計画演習テキスト)
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本人の食事摂取基準(2020年版)の実践・運用 特定給食施設等における栄養・食事管理」食事摂取基準の実践・運用を考える会 第一出版 ISBN 978-4-8041-1415-6 ・イラストでみるはじめての大量調理 学建書院 ISBN 978-4-7624-0882-3 ・文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課 「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」 学建書院
教員e-mailアドレス	hata@morioka-u.ac.jp
オフィスアワー	研究室の前に掲示する。